

次世代の親を育成するために
(提言)

西宮市青少年問題協議会
平成29年(2017年)3月

目次

<u>はじめに</u>	1
<u>I 育児に関する社会の現状</u>	2
1. 少子化・核家族化.....	2
2. 子育ての情報源.....	3
3. めざすべき社会の在り方.....	4
<u>II 西宮市の中高生の将来像に関する意識調査</u>	5
1. アンケートの概要.....	5
2. アンケートの調査結果.....	5
(1) 家事手伝いの頻度や地域でのふれあい経験について.....	5
(2) 結婚観について.....	6
(3) 子育て観について.....	7
(4) 働き方のイメージと将来展望について.....	8
<u>III 「次世代の親」を育むために</u>	9
1. 「愛され、支えられてきた経験」への気づき.....	10
2. 「乳幼児等様々な世代とのふれあい体験」.....	12
3. 「生活者としての自立」.....	15
4. 「豊かな人権感覚と生命の尊厳」.....	17
5. 「男女共同参画社会への知識と理解」.....	18
<u>提言のまとめ</u>	19
平成27・28年度期 西宮市青少年問題協議会委員一覧表.....	21
平成27・28年度期 西宮市青少年問題協議会の協議経過.....	22

はじめに

今期（平成 27・28 年度）の青少年問題協議会では、「次世代の親を育成する」ために、中学生・高校生を主な対象として、西宮市としていかなる取り組みを行っていけばよいかを話し合い、具体的な提言を行うこととした。

次世代の親を育てようとする取り組みは、国及び地方自治体など、既に様々なレベルで実行されている。合計特殊出生率^{注1}が 1.57 となったことを契機に、平成 2 年、少子化対策が本格的に議論されるようになり、平成 6 年にはそのさきがけとして「エンゼルプラン」が策定された。以来、平成 11 年に「新エンゼルプラン」が始まり、平成 15 年には「少子化社会対策基本法」と「次世代育成支援対策推進法」（以下、推進法）が施行され、国を挙げて少子化対策が策定、実行され、「推進法」施行の際、「取組方針」には、「次世代を育む親となるために」との категория が置かれた。「推進法」は 10 年間延長され（改正法、平成 26 年）ている。

学校教育でもこれに関連した取り組みが実行されている。先に示した平成 15 年の「取組方針」には、「体験活動の充実や異世代との交流推進」とともに、「中高生が乳幼児とふれあう機会の拡充」といった項目が示されており、こうした取り組みを先進的に実施している自治体・学校もある（例えば豊田市）。さらに平成 24 年度の学習指導要領改訂で、中学校技術・家庭科において「子どもが育つ環境としての家族の役割」や「幼児と触れ合うなどの活動、係わり方の工夫」が必修指導項目として盛り込まれたのも、こうした流れの一環である。

本協議会では、テーマの協議に先立ち、以下の二点を確認した。すなわち、提言の作成にあたっては、「結婚して子供を産み、親になる」という一元的な価値観を中高生らに押し付けることはしない。結婚する・しない、子供をもつ・もたないなど、多様な価値は保障されねばならない。また L G B T (Lesbian, Gay, Bi-sexual, and Trans-gender)、性同一性障害などの性的少数者の人々もいれば、子供ができない場合もある。よって本協議会においては、青少年の健全育成を土台に、将来、親となることに限定せず、広く社会の一員として、次世代の子供たちの成長を手助けし、見守っていける大人を育成するという観点から出発する。

もう一つは、今回の協議テーマは非常に広範囲に及ぶものであり、一地域の中高生や地域社会を対象とする施策では、限界があるという点を確認した。親になる選択をするには、子育て世代の雇用形態や賃金保障、子育てに関する社会的サービス、社会の性別役割分業意識にいたるまで、広範で構造的な問題が関わっており、一地域の取り組みとしては限界がある。

この事実を認識した上で、西宮市における中高生の健全育成を土台としながら、今回のテーマに少しでも寄与するには、どのような環境整備をすることができるのかを協議していくこととした。

注1 女性が一生の間に出産する子供の数を表した合計特殊出生率の推移をみると、戦後の第 1 次ベビーブーム期（昭和 22 年～24 年）では 4.3 を超えていたが、その後急激に低下し、平成元年には、それまで最低であった昭和 41 年（丙午：ひのえうま）の値を下回る 1.57 を記録し、さらに平成 17 年には過去最低の 1.26 まで落ち込んだ。その後、微増傾向が続いているものの、平成 27 年度では 1.45 と欧米諸国と比較するとお低い水準に留まっている。

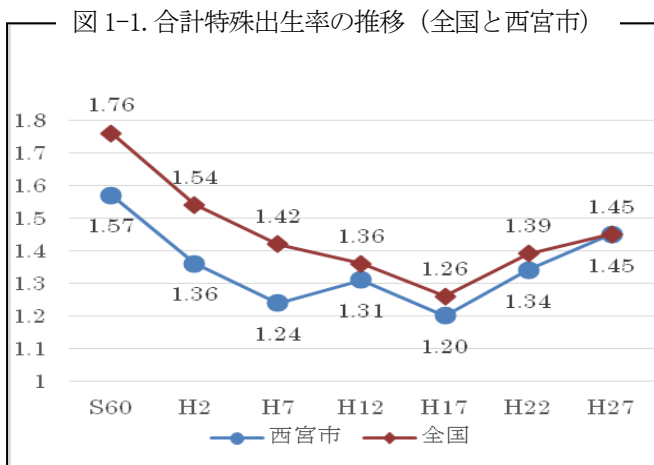
I 育児に関する社会の現状

まず、既存の調査データを利用して、全国及び西宮市における家族や少子化、育児をめぐる現状を把握する。合わせて、国が進めている少子化対策とそれを通して目指すべき社会像を示し、提言の指針とする。

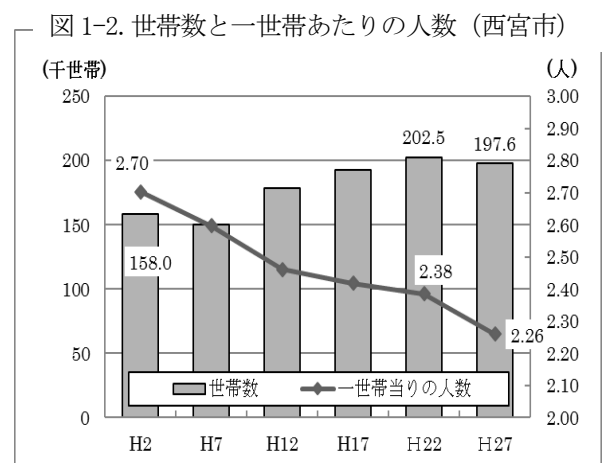
1. 少子化・核家族化

日本では、少子化や非婚、核家族化が大きな問題となっている。西宮市においては、子育て世代の流入により小学校の教室不足を招いていたたり、新たに小学校が作られたりするなど、学童期の人口は増えており、少子化のイメージは希薄であるものの、出生数は着実に減少している。合計特殊出生率は近年少し回復して全国と同等になっているものの、低い水準である。

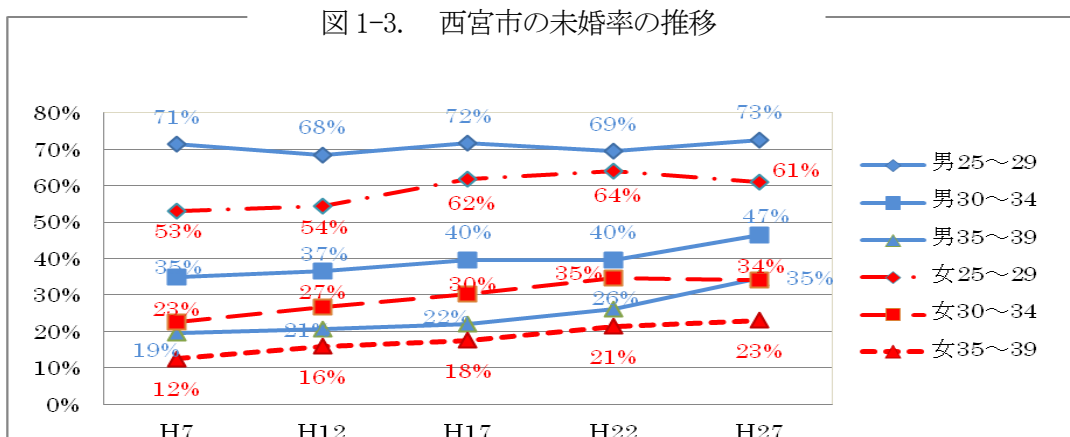
また、20代後半以降の世代の未婚率も徐々に増加し、晩婚化が進行している。さらに核家族化が進み、単独世帯が増えるなどして、一世帯あたりの人数は2.26人（平成27年）まで減少した。これに伴い、地域における人間関係の希薄化も指摘されて久しい。



資料：西宮市保健所、厚生労働省 人口動態統計



資料：総務省 国勢調査



資料：総務省 国勢調査

このように徐々にではあるが着実に少子化が進行し、地域での交流機会が減少する中、若い世代が赤ちゃんと接する機会は減っている。ベネッセ教育総合研究所の調査（平成 23 年第 2 回妊娠出産子育て基本調査）によると、現在育児中の親の約半数が、子供のころから今までに赤ちゃんと身近に接したり、世話をしたりする機会が無かったと答えている。

2. 子育ての情報源

核家族化が進み、祖父母と同居する世帯が減り、親と祖父母と一緒に子供の面倒をみたり、親が祖父母に相談したりする機会が減ってきている。西宮市が行った 0～5 歳の子供を持つ保護者への調査によると、子育ての情報源としては、隣近所の人・知人・友人 68.9%が最も多く、親族 54.0%、保育園・幼稚園・学校 44.9%が上位に挙げられている。0 歳児の保護者に限ると、隣近所の人・知人・友人、親族の次にインターネット 52.7%、市販の子育て雑誌・育児書 51.1%が高い比率で続く。ここで留意すべきは、インターネットや子育て雑誌など、情報過多になっている今日の社会の傾向である。乳幼児とふれあう経験のないまま子育てに向き合い、種々の一方向的な情報に振り回され、過剰反応し、自信を無くして孤立化する親の現状はないだろうか。

妊娠や育児について誤った情報やイメージを持つことにより、現実とのギャップから子供に対する虐待や育児放棄（ネグレクト）に陥ってしまう場合もあるのではないかと。

表 1. 子育てに関する情報をどのように入手しているか（西宮市）

（上位 6 位までのクロスとなっています）

単位：%

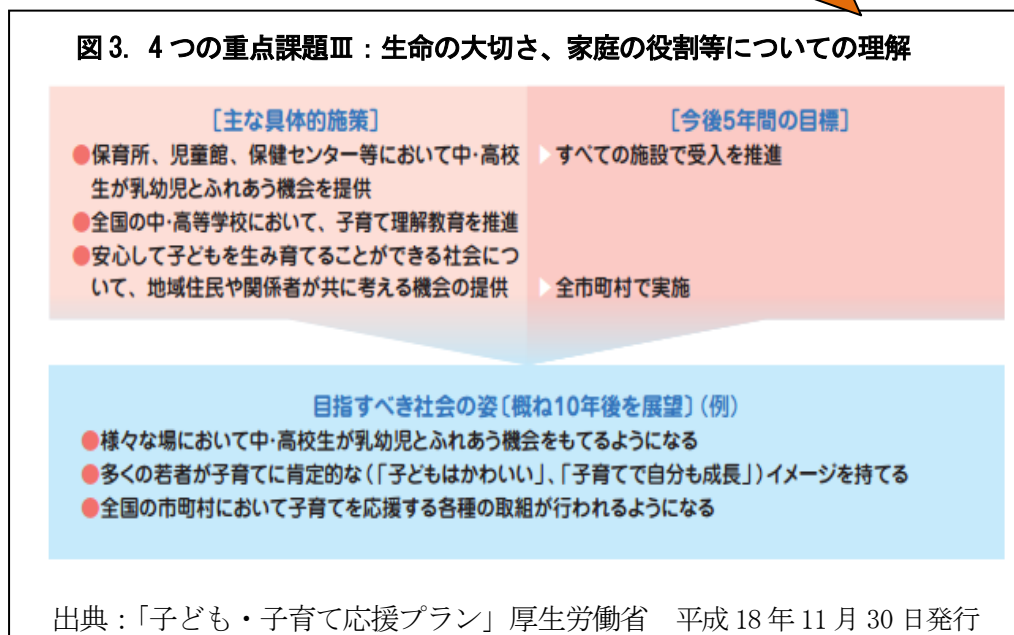
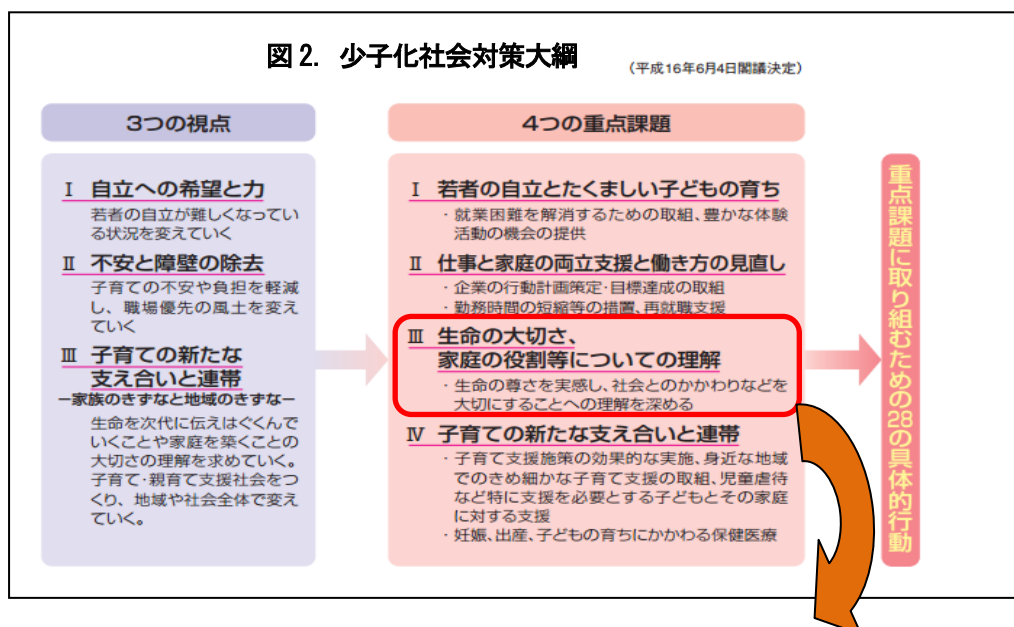
		隣近所の人、 知人、友人	親族（親、きょうだいなど）	保育園、幼稚園、 学校	市の広報誌や パンフレット	インターネット	市販の子育て 雑誌・育児書
合計	N=2,216	68.9	54.0	44.9	40.9	39.8	32.5
0歳	N=393	64.9	67.4	15.5	38.4	52.7	51.1
1歳	N=385	69.4	56.6	24.7	43.4	47.8	33.5
2歳	N=345	68.1	60.6	34.2	43.8	40.0	34.5
3歳	N=351	70.4	48.7	61.3	42.2	36.2	27.6
4歳	N=336	72.6	45.5	71.4	35.7	36.6	25.6
5歳	N=336	67.6	42.0	71.1	42.3	24.7	19.6

出典：西宮市次世代育成支援行動計画策定のためのニーズ調査報告（平成 21 年）

3. めざすべき社会の在り方

少子化対策や次世代育成のための国の施策として、平成6年の「エンゼルプラン」以降、「新エンゼルプラン」「子ども・子育て応援プラン」などが策定され、安心して子供を産み、育てることができる社会環境づくりが推し進められている。

平成16年6月「少子化社会対策大綱」が閣議決定され、3つの視点と4つの重点課題が示された。その具体的な施策内容と目標を提示したのが「子ども・子育て応援プラン」（平成17～21年度）である。4つの重点課題の1つ「生命の大切さ、家庭の役割等についての理解」を通して目指すべき社会の姿として、「①様々な場において、中・高校生が乳幼児とふれあう機会をもてるようになる」「②多くの若者が子育てに肯定的なイメージを持てる」「③子育てを応援する各種の取組が行われるようになる」と述べている。



II 西宮市の中高生の将来像に関する意識調査

1. アンケートの概要

西宮市の青少年の子供とのふれあい経験、結婚観や家族観などの将来像を把握するため、市内の中学校、高等学校の協力を得て、アンケート調査を行った。

調査時期 平成28年2月4日～26日

調査対象 西宮市立中学校（全20校）の2年生全員 回答者 3,661名（回答率91.34%）

西宮市立高等学校（全2校）の2年生全員 回答者 561名（回答率96.06%）

2. アンケートの調査結果

以下、本提言内容に特に関わる質問項目のみを取り上げ、概観していく。

(1) 家事手伝いの頻度や地域でのふれあい経験について

・高校生になると男女ともに手伝いをしなくなる傾向が見られる（問3）

「ほとんどしていない」「まったくしていない」との回答が、中学生は男女とも16～20%であるのに対し、高校女子は23.1%、高校男子は34.3%と三分の一強に達する。

・異世代交流では、中学生より高校生、女子より男子の方が、交流機会に乏しい（問4）

「ほとんどない」「まったくない」と答えた中学生27.3%（男子31.1%、女子23.3%）、高校生35.8%（男子39.6%、女子32.0%）である。

・乳幼児とのふれあい経験は約半数が「まったくない」（問5）

中学生は43.2%（男子49.3%、女子36.7%）、高校生は55.8%（男子62.9%、女子48.6%）で、男子は女子よりも10%以上高い比率であった。

表2. 家事手伝いの頻度や地域でのふれあい経験について

問い	選択肢	中学			高校		
		全体 割合(%)	男 割合(%)	女 割合(%)	高校 割合(%)	男 割合(%)	女 割合(%)
問3 あなたは自分の家で、家事の手伝いをしていますか。	1 よくしている	13.7	13.7	13.6	9.1	9.5	8.6
	2 まあまあしている	26.2	23.1	29.6	21.0	18.0	24.1
	3 たまにしている	41.7	42.9	40.5	41.2	38.2	44.2
	4 ほとんどしていない	15.8	17.6	14.0	24.6	28.3	20.9
	5 まったくしていない	2.4	2.6	2.1	4.1	6.0	2.2
	無回答	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0
問4 学校・家庭以外の、近所・親戚・地域活動などで、年齢や世代の違う人と一緒に話す機会がありますか。	1 よくある	17.5	14.9	20.3	13.7	12.4	15.1
	2 まあまあある	22.8	21.9	23.8	18.5	17.0	20.1
	3 たまにある	32.3	31.9	32.5	31.9	31.1	32.7
	4 ほとんどない	23.5	26.0	20.9	30.5	32.5	28.4
	5 まったくない	3.8	5.1	2.4	5.3	7.1	3.6
	無回答	0.1	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0
問5 あなたは、中学生になって以降、学校の授業や行事以外で、0歳～3歳くらいの乳幼児と触れ合う機会がありましたか。	1 常に乳幼児と触れ合う機会がある	7.2	5.5	8.9	2.3	2.8	1.8
	2 年に3回以上ある	19.7	17.1	22.5	11.6	8.8	14.4
	3 年に1～2回程度ある	29.1	27.2	31.2	29.4	24.4	34.5
	4 まったくない	43.2	49.3	36.7	55.8	62.9	48.6
	無回答	0.8	1.0	0.6	0.9	1.1	0.7

(2) 結婚観について

・全体として結婚願望は強い (問6)

「将来、結婚したいか」との問いに対し、「よくわからない」との回答が中学男子 31.0%、女子 24.0%、高校生で 15%程度あるものの、中学生は 59.7% (男子 55.3%、女子 64.3%)、高校生は 74.2% が「したいと思う」と回答しており、概して結婚の願望は強いと言える。

・結婚に対するイメージは明るいが、家事負担に対する認識は男女で差がある (問7)

「結婚のイメージ」では、「好きな人と一緒にいられる」(中学生 46.3%、高校生 55.3%)、「子供が持てる」(中学生 38.9%、高校生 49.2%) が男女とも他より高い。一方、「家事をするのが大変そう」に対する回答は、中学男子 11.9% に対して女子 36.4%、高校男子 4.9% に対して女子 25.9% と男女間の差が 20 ポイント以上もある。

・結婚後の家事分担は「男女の区別なくできる人がやればいい」が約半数 (問8)

家事の分担では、「男女の区別なくできる人がやればいい」との回答が中学生 40.8%、高校生 55.3% で、高校生の方が 15% も高い。「男女同じ程度」との回答では中学生 32.2% に対し、高校生では 24.6% に減少する。一方、「主に女性がした方がよい」「どちらかというとな女性がした方がよい」との回答が、学校段階や性別を問わず 12~16% ある。

表 3. 結婚に対するイメージについて

問い	選択肢	中学			高校		
		全体 割合(%)	男 割合(%)	女 割合(%)	高校 割合(%)	男 割合(%)	女 割合(%)
問6 あなたは、将来、結婚したいと思いますか。	1 結婚したいと思う	59.7	55.3	64.3	74.2	73.1	75.2
	2 あまり結婚したいと思わない	12.2	13.2	11.1	10.2	11.0	9.4
	3 よくわからない	27.6	31.0	24.0	15.3	15.5	15.1
	無回答	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4
問7 あなたは、結婚について、どのようなイメージを持っていますか。 (○は3つまで)	1 好きな人と一緒にいられる	46.3	46.6	46.0	55.3	60.8	49.6
	2 精神的、経済的に安定する	20.2	24.9	15.1	26.2	26.9	25.5
	3 子供が持てる	38.9	38.1	39.8	49.2	45.9	52.5
	4 親から独立する	21.9	20.7	23.1	23.2	18.0	28.4
	5 親を喜ばせることができる	19.1	18.8	19.6	10.0	6.4	13.7
	6 時間やお金を自由に使えるようになる	14.8	16.2	13.2	15.0	19.4	10.4
	7 家事をするのが大変そう	23.8	11.9	36.4	15.3	4.9	25.9
	8 子育てをするのが大変そう	25.9	23.0	29.1	19.4	20.5	18.3
	9 家事が割になるなど、生活が便利になる	4.1	7.0	1.0	2.3	4.6	0.0
	10 相手の家族・親族との付き合いがめんどろ	9.7	7.6	12.0	10.3	8.5	12.2
	11 他人と家族になるのがめんどろ	3.1	2.6	3.6	5.2	5.3	5.0
	12 よくわからない	14.7	18.5	10.6	7.7	9.5	5.8
無回答	0.8	0.8	0.7	0.9	1.1	0.7	
問8 あなたは、家庭において、子育てを含む家事をどのようにするのがよいと思いますか。	1 男性・女性が同じ程度負担してやればいいと思う	32.2	30.9	33.7	24.6	27.9	21.2
	2 男性・女性の区別なくできる人がやればいいと思う	40.8	39.8	41.8	55.3	50.2	60.4
	3 主に男性がした方がよいと思う	0.8	1.4	0.2	0.4	0.4	0.4
	4 どちらかといえば男性がした方がよいと思う	0.6	1.2	0.1	0.5	1.1	0.0
	5 どちらかといえば女性がした方がよいと思う	10.2	8.5	11.9	12.3	12.0	12.6
	6 主に女性がした方がよいと思う	4.3	4.1	4.5	1.4	1.4	1.4
	7 よくわからない	9.6	12.3	6.6	3.9	5.3	2.5
	8 その他	1.0	1.2	0.8	1.4	1.8	1.1
	無回答	0.5	0.6	0.4	0.2	0.0	0.4

(3) 子育て観について

・理想の子供数は、中高生ともに、2人が過半数（問9）

中学生 51.5%、高校生 62.0%が理想は子供2人とし、3人が13～17%と続く。「ほしいと思わない」は学校段階や性による差は少なく、5～7%に過ぎない。

中学生で「よくわからない」との回答が20%程度あるが、全体としては子供を持つことにマイナスのイメージは少ないようだ。

・子供を持つこと（親になること）に対してはプラスイメージ（問11）

「自分の子供はかわいいと思う」「子育てを通して人間として成長できる」など、肯定的な回答が多い。特に女子の比率は高く、「自分の子供はかわいい」との回答では中学生が54.0%、高校生が61.9%と男子よりも10ポイント以上高い比率となっている。

反面、「手間がかかり負担が大きい」では中学生26.9%、高校生33.3%が、「自由な時間が無くなる」では中学生16.7%、高校生17.6%が選択した。特に女子では、「自由な時間が無くなる」と答えた比率は、男子よりも7～8ポイント高い結果となっており、女子の方が自分の生活が制限されるとの受け止めが強いようである。

・「異世代交流」「乳幼児とのふれあい」が少ないと、「子供を欲しいと思わない」傾向
下の表には示していないが、質問のクロス集計から伺える傾向である。（別添参考資料参照）

表4. 子供を持つことに対するイメージについて

問	選択肢	中学			高校		
		全体	男	女	高校	男	女
		割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)	割合(%)
問9 理想として、子供は何人ぐらいほしいと思いますか	1 1人	6.8	6.9	6.7	4.8	5.3	4.3
	2 2人	51.5	47.8	55.6	62.0	61.8	62.2
	3 3人	12.9	11.9	14.0	16.6	13.4	19.8
	4 4人以上	2.2	2.6	1.8	0.5	1.1	0.0
	5 子供はほしいと思わない	6.8	7.0	6.6	5.3	5.3	5.4
	6 よくわからない	19.3	23.2	15.1	10.5	12.7	8.3
	無回答	0.5	0.6	0.3	0.2	0.4	0.0
問11 子供を持つことについて、どのようなイメージをもっていますか。 (○は3つまで)	1 子供を生んで育てるのは当然のことだと思う	29.3	31.1	27.2	25.7	30.7	20.5
	2 自分の子供はかわいいと思う	48.8	43.9	54.0	55.3	48.8	61.9
	3 老後が安心である	14.8	18.2	11.2	11.2	11.0	11.5
	4 子育てを通して人間として成長できる	43.4	40.8	46.2	41.9	37.5	46.4
	5 親の期待にこたえられる	12.0	11.1	13.1	6.8	4.9	8.6
	6 自由な時間がなくなる	16.7	12.4	21.1	17.6	14.1	21.2
	7 子育てで、お金や手間がかかり負担が大きい	26.9	24.2	29.8	33.3	33.6	33.1
	8 子供はわずらわしい	2.5	2.6	2.3	2.0	3.9	0.0
	9 社会環境が悪化しているので、子供の将来が心配である	10.5	11.0	10.0	10.5	13.1	7.9
	10 その他	1.9	2.5	1.2	5.0	4.2	5.8
	11 よくわからない	14.1	17.8	10.1	7.3	10.6	4.0
無回答	0.8	1.0	0.6	0.0	0.0	0.0	

(4) 働き方のイメージと将来展望について

・「結婚後の仕事」は男女で意識の差 (問 14・問 15)

働き続けたいと思う女子は中高生ともに約3割に対して、男子は9割前後と大きな差が見られた。結婚後も配偶者に「働き続けてほしい」と思う男子は13%前後に過ぎない。また、「子供ができたら仕事を辞めてほしい」が中学男子で28.2%、高校男子21.2%、「子育てが一段落すれば復帰」との回答した男子は中学、高校とも3割を超え、男女共同参画社会が目指す理想とは食い違いがある。

・「男性が育児休業をとること」には肯定的 (問 16)

「わからない」とする者が中学生で約24%、高校生で約16%あったが、「是非取った方がよい」「できれば取った方がよい」を合わせると中学生で5割超、高校生では三分の二が肯定的に答えており、男女で大きな差はない。

・8割前後が「将来、就きたい職業」を持っている (問 17)

「ある」「なんとなくある」の合計が中高生ともに8割前後である。

反面、「就きたい職業がない」「考えたことがない」との回答は、男子の方が高く、中学男子で25%、高校男子で約16%ある。

・将来の社会生活についての心配事や不安は、「就職できるか」 (問 18)

中学生では7割近く、高校生では過半数が「就職できるか」との不安を感じており、女子の方が高くなっている。次に「経済的自立」が半数近くあり、就職や経済面への不安が強いことが分かる。

表 5. 将来の仕事・働き方について

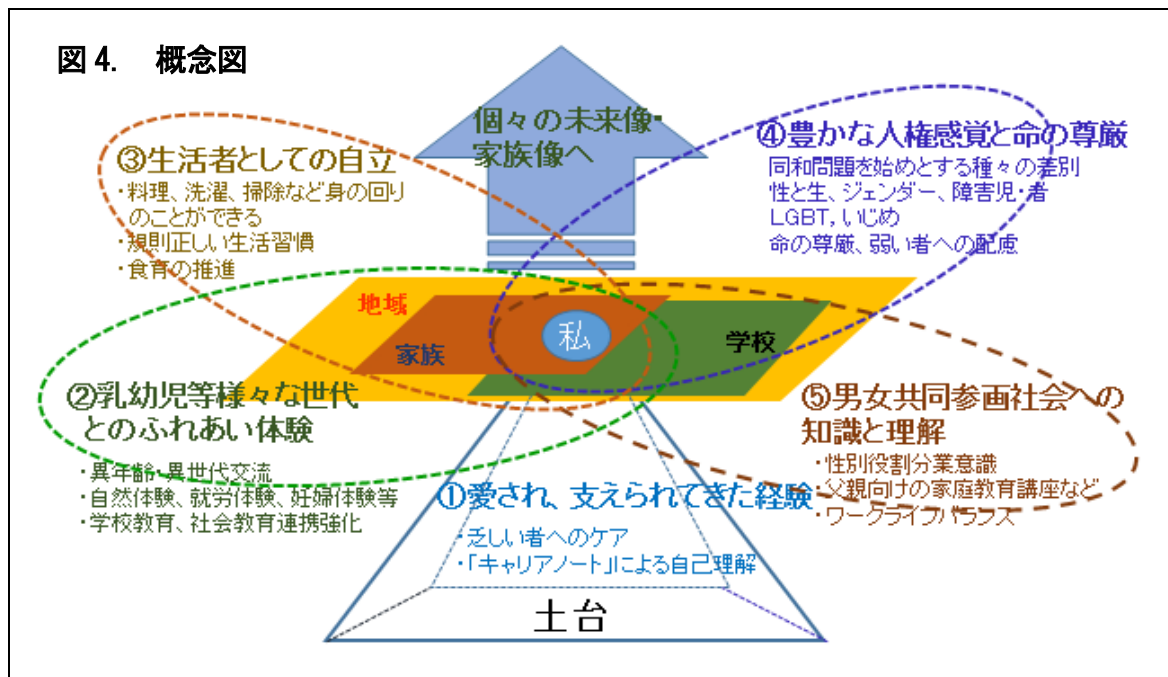
問い	選択肢	中学			高校		
		全体 割合 (%)	男 割合 (%)	女 割合 (%)	高校 割合 (%)	男 割合 (%)	女 割合 (%)
問14 将来、あなたが結婚した場合、自分の仕事をどうしたいですか。	1 結婚後も、ずっと働き続けたい	58.5	86.9	28.2	61.0	90.8	30.6
	2 結婚したら仕事を辞めたい	4.5	0.8	8.4	3.2	2.1	4.3
	3 子供ができたら仕事を辞めたい	9.8	0.7	19.5	8.4	0.4	16.5
	4 結婚後、あるいは子育てが一段落した後、仕事に復帰したい	23.7	7.6	41.0	22.5	1.8	43.5
	5 その他	2.5	2.8	2.1	3.2	3.2	3.2
	無回答	1.0	1.2	0.7	1.8	1.8	1.8
問15 将来、あなたが結婚した場合、結婚相手には仕事をどうしてほしいですか。	1 ずっと働き続けてほしい	48.7	13.5	86.2	51.7	12.0	92.1
	2 結婚したら、仕事を辞めてほしい	5.5	10.3	0.4	2.5	4.9	0.0
	3 子供ができたら、仕事を辞めてほしい	14.8	28.2	0.3	10.7	21.2	0.0
	4 結婚後、あるいは子育てが一段落した後、仕事に復帰してほしい	21.6	32.5	10.0	19.8	36.0	3.2
	5 その他	8.2	13.8	2.2	13.5	23.7	3.2
	無回答	1.3	1.6	0.8	1.8	2.1	1.4
問16 あなたは、男性が育児休業(休暇)をとることについてどう考えていますか。	1 ぜひ取るべきだ	19.4	22.2	16.5	27.1	25.8	28.4
	2 できれば取ったほうがよい	33.5	32.7	34.2	39.2	37.8	40.6
	3 あまり取らないほうがよい	15.6	13.6	17.8	12.8	12.0	13.7
	4 取るべきではない	5.9	6.1	5.8	3.0	3.9	2.2
	5 わからない	24.4	24.0	24.8	16.4	18.7	14.0
	無回答	1.1	1.4	0.9	1.4	1.8	1.1
問17 あなたは、将来、就きたい職業はありますか。	1 ある	38.0	36.7	39.5	40.6	38.9	42.4
	2 なんとなくある	39.6	37.3	42.0	43.1	42.8	43.5
	3 ない	13.3	14.4	12.2	11.6	13.4	9.7
	4 考えたことがない	8.2	10.5	5.7	3.0	2.8	3.2
	無回答	0.9	1.2	0.6	1.6	2.1	1.1
問18 あなたは、将来の社会生活について、どのような心配事や不安はありますか。(〇はい/×でも)	1 ない	14.4	17.0	11.7	15.0	16.3	13.7
	2 就職できるか	68.8	65.8	72.1	58.1	54.4	61.9
	3 経済的に自立できるか	51.5	49.1	54.1	46.2	47.7	44.6
	4 結婚できるか	27.9	25.4	30.7	28.5	25.1	32.0
	5 子育てがうまくできるか	21.2	18.2	24.4	19.1	18.7	19.4
	6 その他	4.2	5.2	3.2	5.0	7.1	2.9
	無回答	1.3	1.5	1.1	1.4	1.8	1.1

Ⅲ 「次世代の親」を育むために

若者が社会的に自立することが難しい社会状況の中で、「子供を産み、育てることに喜びを感じることのできる社会」への転換が求められている。しかし、労働観・結婚観・子育て観は、それまでの環境・体験の中で徐々に形成されるものであり、長期展望に基づいた地道な取り組みが求められる。

健全な「次世代の親」の育成に必要な要素とは、一体何かについて協議を重ね、以下の5つのカテゴリーに分けて考えた。それらの関係を表したのが下の概念図である。

- ① 「愛され、支えられてきた経験」の積み重ねと振り返りを通して、自己肯定感を高めること
- ② 「乳幼児等様々な世代とのふれあい体験」を通してコミュニケーション能力を身につけること
- ③ 家事分担や料理・洗濯等、性別を問わず「生活者としての自立」ができること
- ④ 「豊かな人権感覚と命の尊厳」を理解する心を養うこと
- ⑤ 性差や年齢に関係なく人々が支え合っている「男女共同参画社会への知識と理解」を深めること



以下、西宮市において、次世代の親となる中高生に対してどのような環境づくりをし、働きかけをしていけばよいか、この5つのカテゴリーごとに考察していく。

1. 「愛され、支えられてきた経験」への気づき

人は決して一人で成長するのではない。多くの人に見守られ、つながりの中で支えられている。自分の成長の足跡を振り返ることを通じて、家族や周囲の人たちからの愛情や思いやりを感じるとともに、一人一人がかけがえのない存在であることを自覚し、自己肯定感をもつことが大事である。

愛され、支えられてきた経験への気づきは、社会的な自立の第一歩を踏み出す基盤となり、明るい将来展望へとつながると考える。

<具体的な取り組みに向けて>

(1) 家庭で

家庭においては、家族のありようが青少年に与える影響は大きい。まず、親は子供の身近なモデルとしての自覚を持ち、子供が安心して過ごせる環境づくりを通して、自尊感情を育むように努めることが求められる。

例えば、誕生日や、家族の記念日を大切にすることなどは、自分がかけがえのない存在として大切に見守られてきた実感を醸成し、他者への思いやりや感謝の心を育むことにつながると考える。

また、西宮市家庭教育振興市民会議の提唱する『思いやりのある西宮っ子を育てる5つの実践目標』^{注2}を、家庭、学校、地域が一体となって実践することが望まれる。

(2) 学校で

学級は、第二の家庭である。「生徒たち」とひとくくりにするのではなく、一人一人が違ったよさ・輝きをもつ存在であることを再認識し、個々人が尊重され、安心して交流できる、生徒にとっての準拠集団となるような学級の経営が望まれる。

また、今、目の前にいる生徒が、近い将来に親世代になることに思いをはせ、長期的展望をもった温かい支援者であることが望まれる。兵庫県教育委員会作成の『キャリアノート』^{注3}は、自分の生い立ちを振り返りながら、将来の自分やその家族の姿を見通すために有効な教材である。小学校段階からの計画的な活用と、小・中・高の校種間連携に基づく研究の推進が求められる。

^{注2}西宮市家庭教育振興市民会議が「夢はぐくむ教育のまち西宮」を実現するために提唱した、家庭・地域・学校が連携し具体的に取り組んでいく指針。昭和58年(1983年)に初めて提唱し、平成23年度(2011年度)2月見直し。

「①育てよう 優しい心とがんばる力 ②声かけよう おはよう・ありがとう・ごめんなさい ③見守ろう よその子・我が子区別なく ④習慣づけよう 早寝・早起き・朝ごはん ⑤外に出よう 元気に遊んで友だちいっぱい」

注3 『キャリアノート』を用いたキャリア形成

基本方針
1 **自立して未来に挑戦する態度を育成します**

社会的自立に向けたキャリア形成の支援

子どもたちが学びの原動力となる夢や目標を持つことや、自分らしい生き方を実現する力を育成するため、キャリアノート等を活用して小学校から高等学校までの継続的な支援を行います。

キャリアノートをつなぐ ～12年間を見通す～

キャリアノートの主なテーマ(内容)

- 小学校**
 - 自分の良いところや得意なことをみつけよう
 - あいさつや約束・きまりなどの自分の生活を振り返ろう
 - 自分の役割を振り返ろう ○1年間のがんばりを振り返ろう
- 中学校**
 - 自分を見つめよう ○将来を見つめよう
 - 学ぶことの意義について考えよう ○進路について考えよう
 - 人とのつながりについて考えよう
- 高等学校**
 - 自分を知る ○自分の学びたいことを分析する
 - 人間関係をつくる ○就業体験を通して職業を理解する
 - 人生をデザインする ○高校生活をデザインする

出典：『平成28年 ひょうごの教育 兵庫県がはぐくむこころ豊かで自立した人づくり』
http://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/hyougouonokyoiiku/h28_japanese.pdf

(3) 地域で

子供を愛し、支えているのは家庭や学校だけではない。地域の人々も挨拶や声かけ、見守り等様々な形で、地域の子供を愛し、支えている。周囲の多くの大人に愛され、支えられてきた経験は、子供の豊かな人間性や社会性を育む糧となる。家族同様、子供を育む存在として、地域の力が不可欠となる。

地域の大人それぞれが「地域の子供たちは地域で育てる」という意識を持ち、地域行事等のあらゆる機会を通して子供と交流し、つながりを強め、子供に関心をもつ機会を増やすことが望まれる。

(4) 行政として

現在、市立高校3年生を対象に実施している「次世代の親になるために」をテーマにした講演会は、「愛され、支えられてきた経験」を振り返るきっかけの一つとなっている。このような講演会を市立高校に限定せず、それ以外の高校や中学校にも拡大して実施していくことが望まれる。

また、先述の『5つの実践目標』^{注2}の実践状況調査を行うなど、実態を踏まえたうえで、更なる実践の推進を図りたい。

2. 「乳幼児等様々な世代とのふれあい体験」

都市化や核家族化が進み、価値観やライフスタイルの多様化が顕著になる中で、社会とのつながりが一面的で、希薄になっていると言われる。そのため、異年齢の子供や親戚、地域の人たち等とのいわゆる「ナナメの関係」を築く機会が失われ、子供たちの人間関係能力が低下していると指摘される。本協議会で実施したアンケート調査でも、乳幼児とのふれあい・異年齢交流の少ない中高生は、将来「子供は欲しくない」「働きたくない」と答える傾向も見られた。

異年齢交流や体験活動がその後のライフスタイルに及ぼす影響を考え、次世代の親になる中高生に豊かな体験の機会を提供することで、相手を思いやり、社会生活を円滑に過ごすための、人と関わる力、コミュニケーション力を育む必要があると考える。

<具体的な取り組みに向けて>

(1) 家庭で

子供の人格形成はダイナミックな他者とのふれあいの中でなされる。そのコミュニケーション力の基本とも言える、「おはよう、いただきます、ごちそうさま、ありがとう、ごめんなさい」等の挨拶は家庭から実践することが望まれる。

また、子供にとっての自然とふれあう体験や、図書館・美術館・博物館・公民館等での文化的体験、異年齢の子供や親戚・地域の様々な世代の人たちと交流する体験の重要性を大人自身が理解し、親がモデルになり、機会を提供することが望まれる。

(2) 学校で

時代の変化とともに、青少年の体験活動不足が大きな課題の一つになっている。兵庫県では「トライやる・ウィーク」「インターンシップ推進プラン」「高校生ふるさと貢献活動」等先進的な取り組みがなされているが、加えて、連続性と系統性を兼ね備えたカリキュラムに基づき、「ひょうご親学習プログラム」^{注4}を一層活用することが望まれる。

特に、次世代の親の育成においては、十代の時期に乳幼児とのふれあい体験をすることが効果的と考えられる。市立西宮東高校では、平成27年度より授業の一環として「赤ちゃんとのふれあい体験」^{注5}が導入されているが、今後実施対象を広げたり、事後指導として「赤ちゃんへの手紙」を取り入れたりするなど、プログラムの更なる充実・発展が期待される。

また、日常的な取り組みとして、保育園・幼稚園や小学校との連携の中で、異年齢・異世代とふれあうことができる機会の提供が望まれる。そうした取り組みが、思いやりや憧れといった感情の醸成、自発的な人間関係の促進につながると考える。

注4 「ひょうご親学習プログラム」

「ひょうご親学習プログラム」には、親を対象にしたものと将来親になる中高生を対象にしたものの2つのプログラムがある。

親を対象にしたものは、親自身が子供や周りの親にとって自分は有用なものだと感じ、子育てを楽しみ、親子がよりよい関係になれることを願ってつくられた。中高生版は、中高生が乳幼児とその親との交流体験等を伴う学習を通して、子育てを身近なものと感じ、親になることへの期待感を高めることを願ってつくられている。

「つながる」「楽しむ」「寄り添う」「受け止める」「伝える」「癒される」「表現する」「みたて」等のキーワードを基に構成されている。



出典：「ひょうご親学習プログラム」兵庫県教育委員会 平成22年
http://www.hyogo-ikigai.jp/ureshino-bo/ureshino/danjo_chiikika/oyagakusyu/pdf/oya_p.pdf

注5 赤ちゃんとのふれあい体験 ～赤ちゃん先生プロジェクト～

平成27年11月、西宮東高校の1年生全員（280名）を対象に、家庭科の授業の一環として、「赤ちゃん先生プロジェクト」が行われた。乳幼児とその保護者が学校を訪れ、実際に高校生と乳幼児がふれあったり、母親から出産や育児について話を聞いたりする体験型授業である。

授業の初めは、泣き止まない子供もいるなどお互い緊張していたが、授業も終盤になると、乳幼児を抱っこしたり、離乳食を食べさせたり、ボール等で遊ぶなど、打ち解けて、育児体験をしていた。また、母親からは、妊娠期の胎児のエコー写真を見せてもらったり、妊娠が分かったときの気持ち、育児中の嬉しかったことや苦労したことなどを聴かせてもらったりした。

授業後に書いた「1歳の自分へのメッセージ」には、産み育ててくれた親や、生まれてきたことへの感謝の言葉が多くあり、自分が愛されてきたことや命の大切さを認識する機会となった。

<参考>愛知県豊田市では、教育課程に位置づけた授業として「中学生と赤ちゃんのふれあい体験」を実施し、今年で10年目になる。厚生労働省「平成25年版 少子化社会対策白書」

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webgaiyoh/html/gc-2.ht>
ht

※西宮市では平成28年度より新規事業として「次代の親の育成事業」を実施。

実施校：小学校（4校）、中学校（9校）、高校（1校）の全14校

(3) 地域で

地域社会という家庭や学校の枠を越えた人々とのふれあいや幅広い体験を通して、子供たちは社会性を育み、生きる力を伸ばしていく。まずは、子供たちにとって地域社会が重要な体験活動の場であり、社会勉強の場であることを大人が認識し、中高生が多くの人と交わり、つながりを生む取り組みを積極的に行ってもらいたい。

また、中高生には責任のある役割を担い地域づくりに関わる体験が必要であり、地域の行事や活動に、中高生が主体的に参画できるような工夫が望まれる。

(4) 行政として

中高生が同世代や異年齢との社会的交流を通して、自己表現したり、他者とのコミュニケーションを交わしたりすることができる場づくり、プログラム作成が望まれる。

例えば、児童館等を中高生が利用しやすいものにする施設面での工夫の他、公共図書館でのおはなし会への中高生のボランティア参加など、企画面での工夫が期待される。

そのためには、学校教育と社会教育が目標を共有し、青少年期という発達段階に応じた実践プログラムを整備して、普及・啓発していくことが不可欠である。連携を推進するにあたっては、両者をつなぐ役割を果たすコーディネーター^{注6}を配置するなどの体制づくりが必要不可欠といえよう。

注6 <島根県雲南市の取り組み> 社会教育と学校を結ぶ「コーディネーター」の配置

島根県雲南市では、平成18年より「教育支援コーディネーター」(7校の中学校区に各1名)、平成20年より「地域コーディネーター」(全ての小中学校(28校)に地域人材30名)、平成23年度から「社会教育コーディネーター」(7校の中学校区に各1名)を配置し、地域全体で学校教育を充実させ、学校を核とした人づくり・地域づくりに取り組んでいる。

学校教育と社会教育の連携・協働を推進するとともに、地域における通学合宿や自然体験、放課後子供教室、地域の自主組織等の体験活動との連携・情報交換等学校と家庭、地域との連携・協働の中で子供たちの体験活動の充実を図っている。

出典：

http://www3.grips.ac.jp/~education/wp/img/symposiumseminar/seminar01_03/img/ht_document1.pdf

3. 「生活者としての自立」

労働観・結婚観・子育て観や性別を問わず、誰もが生活者として、「自立」した存在であることが求められる。そのためには、衣・食・住のそれぞれにおいて自分で環境を整え、生活をしていける力を身につけることが必要である。中高生は、親の庇護から徐々に離れ、生活者として自活し、自立していく準備期間であり、将来家族として支えあっていくための基盤づくりの非常に大切な時期でもある。

また、中高生個々人が社会の一員であることを自覚し、社会に積極的に関わろうとする態度を身につけるために、学校や行政を始め社会を挙げて、シティズンシップ教育（社会形成・社会参加に関する教育）の推進を期待したい。

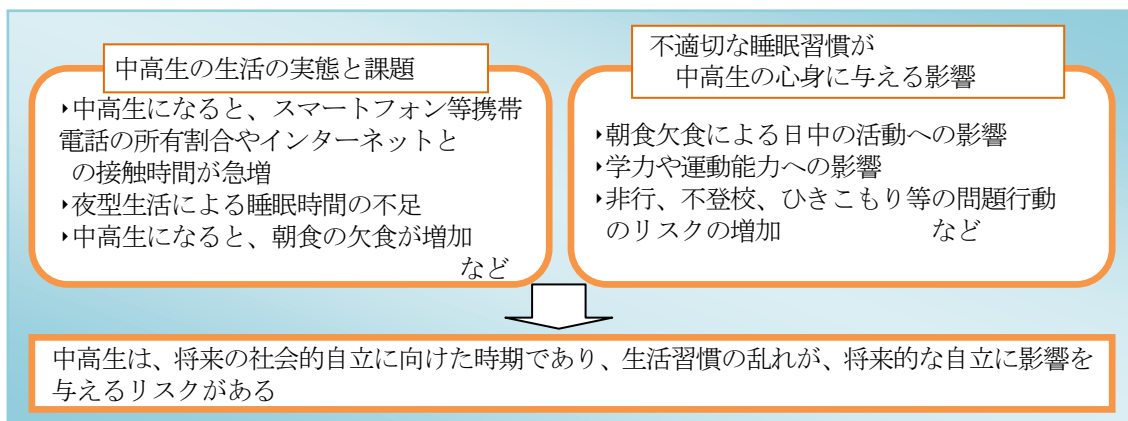
<具体的な取り組みに向けて>

(1) 家庭で

現代の中高生は、生活圏の拡大や行動の多様化、スマートフォン等のメディアの普及等の環境の変化により、生活リズムが乱れやすい環境にある。生活習慣の乱れは、将来の社会的自立に影響を与えるリスクがあるとも懸念されており^{注7}、規則正しい生活習慣を身につけることの重要性を大人が認識し、取り組む必要がある。

また、掃除や洗濯、片付け、買物、料理等の家事における分担や手伝いについても、幼少期から家族の一員として担うこと、さらに、高校生になれば、家計や貯蓄について家族で話し合うことなどは自立に向けた良い準備になると考える。

注7 最近の中高生を取り巻く生活の実態と課題・問題点



出典：「中高生を中心とした子供の生活習慣づくりに関する検討委員会」文部科学省 平成 26 年
<http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2014/03/31/1346112.pdf>

(2) 学校で

学校教育における生活者育成の重要性を再確認したい。技術家庭科は中学校・高校ともに男女必修となり、生活者としての視点が多く取り入れられているが、この学習内容を机上だけのものとはせず、家庭・地域と連携した取り組みが求められる。

もちろん、授業に限らず、学級や学校、クラブでの役割分担等を含めた教育活動全体を通じて、日常生活において自立できる力を総合的に育成することが必要である。こうした積み重ねが、シティズンシップ教育の深化へとつながっていくと考える。

また、平成 28 年度現在、市立小学校・中学校・特別支援学校 62 校中 45 校に栄養教諭・学校栄養職員が配置されており、そうした専門職を中心とした、「食育」の更なる推進も期待される。

(3) 行政として

家庭と連携して取り組むという観点から、生活者としての自立の必要性、生活習慣の実態や規則正しい生活習慣を身につけることの重要性、「食育」の意義等について、家庭や青少年向けに積極的な広報を行い、周知を図ることが重要である。

この他、社会参画という視点を重視し、消費者教育や租税教育等も学校と協力して中高生に対して行っていくことが期待される。

4. 「豊かな人権感覚と生命の尊厳」

次世代の親に是非とも求めたいものの一つに、生命の尊重に根差した豊かな人権感覚の醸成がある。児童虐待の痛ましい事件も頻発するが、子供は親の所有物ではなく、この世に生を受けた瞬間から、かけがえのない存在として尊ばなければならない。

現代社会の中には、様々な人権課題（例えば、同和問題を始めとする種々の差別、性別役割分業意識、LGBT、性同一性障害、DV、いじめ、子供の貧困等）が山積している。それらを他人事としてではなく、我が事として捉えることのできる想像力と、どんな時も相手の立場、弱者の側に立って考えることのできる姿勢を育むことが社会の一員として求められている。

<具体的な取り組みに向けて>

(1) 家庭で

親は、人権感覚を養うために自分の子供にしっかりと教え諭す責任があると同時に、自身の価値観を問い直すことが求められている。子供たちは、親の言動をよく観察しており、親の差別的な意識は、その言動を通じて、知らないうちに子供の心に同じ意識を植えつけてしまう場合が少なくないからである。

まず、親自身が既存の決めつけや思い込みを問い直し、日頃から偏見を持たず、差別をしない、許さないという姿勢を示していくことが何よりも大切である。

また、日常生活の中で、自然や生き物とふれあう機会や読書等の自己研鑽を通じて、豊かな感性を培いたい。それは、思いやりの心を育てることにつながっていくはずである。

(2) 学校で

社会を構成する一員を育てる基盤としての道徳教育、人権教育の意義を教員が自覚し、学校を挙げてなお一層の充実した取り組みを期待する。

生命への畏敬の念を育み、他者の心情を想像し、思いやりのある行動ができるような子供の育成には時間がかかる。また、家庭や地域との連携も不可欠である。

「特別の教科 道徳」を中心としつつも、学校教育全体を通して12年間の計画的で連続した学びを提供し、新たな時代の市民性や人権意識を育みたい。

(3) 行政として

行政では、人権意識を高めるため、児童・生徒、子供の親、社会人一般を対象とする講演会等を開催し、人権意識啓発の冊子やパンフレットの配布を継続的に行っている。時宜にあったテーマの設定、コーディネーターを置いて社会教育と協働するなど、生徒が参加・参画しやすい企画を期待する。

5. 「男女共同参画社会への知識と理解」

次世代の親の育成には、男女共同参画社会の理念を理解し、どのような価値や行動規範が求められているのかを自分のこととして大人自身が考えなければならない。

誰もが自己実現を目指そうとする社会では、性による違いを正しく理解するとともに、多様性を認め合い、互いを思いやり、補い合い、助け合っていくことが求められている。

そのような社会の構成員となる中高生には、従来の常識に縛られず、「自由」「平等」という基本を深く理解し、「相互扶助」の精神を学んでもらいたい。それは同時に、我々大人の、そして社会全体の課題でもある。

<具体的な取り組みに向けて>

(1) 家庭で

家庭の中で長年なじんできた意識を変えるのは案外難しいものである。まず、「男の子は…」 「女のくせに…」 等と、性別役割分業意識に大人自身が縛られていないかを振り返るところから始めたい。

具体的には、夫婦間での役割分担の見直し、子供の性別による手伝いのさせ方や勉強への取り組みせ方、進学や進路選択等に差異はないかなどの振り返りが望まれる。

(2) 学校で

名簿のあり方や行事の際の役割分担等を始めとして、学校生活の慣行を見直し、進路指導、生徒会活動等のさまざまな場で、性別役割分業意識が形成されることのないような配慮が求められる。そのためには、生徒を指導する立場である教職員自身が男女共同参画の理念を理解し、男女共同参画意識を高めることが必要である。

(3) 地域で

人々が意識の中で長い年月をかけて形づくられてきた性別による固定的な役割分業意識は、男女共同参画社会実現の大きな障害の一つであるとの自覚をする必要がある。

地域社会における各種ボランティア活動、消費者活動、環境保全活動、自治会活動等において、男女がともに参加しやすい条件を整えているかを振り返り、性別によって取り組みが偏ることなく進められることが望まれる。

(4) 行政として

男女共同参画意識を醸成するためには、長期的な啓発活動が重要である。ワーク・ライフ・バランスに関する広報・企業への働きかけをしたり、両親教室・妊婦体験・沐浴体験や父親向けの家庭教育講座等を、男性が参加しやすい日曜開催にしたりするなど、きめ細やかな配慮も必要である。

提言のまとめ

今回のテーマは 20 年以上も前から国および多くの地方自治体で取り組んでいるものであり、既に包括的で具体的な計画を作り、施策に取り組んでいる自治体も多くある。そうした中で、「文教住宅都市」をうたい、私立学校も多く、全国的な少子化の流れの中でも学校数が増えている西宮市ではあるが、その取り組みは、後手に回っていると云わざるを得ない。

以下では、特に強調したい 5 項目に焦点を絞り、提言を行う。それぞれの提言は、5 つのカテゴリーの複数にまたがるものなので、提言の説明において、どのカテゴリー要素を含んでいるかを以下の番号で示す。(①愛され、支えられてきた経験への気づき、②乳幼児等様々な世代とのふれあい体験、③生活者としての自立、④豊かな人権感覚と生命の尊厳、⑤男女共同参画社会への知識と理解)

・提言 1：平成 28 年度新規事業「次代の親の育成事業（赤ちゃん先生）」を拡充し発展させるなど、異世代とのふれあい事業を推進する。

思春期にある中高生が、性別にかかわらず、赤ちゃんやその母親たちとふれあいを持つことは (②)、少子化や生活の個別化が進む中で貴重な体験であり、彼、彼女らのみずみずしい感性に訴えかけるものがある。生命の尊厳や性の大切さを知り (④)、愛され支えられてきた自己を振り返る機会 (①) になると同時に、未来の家庭生活への準備 (⑤) となる。

この取り組みは既に始まっているが、一過性のものとして終わらせず、持続的に取り組むことが肝要である。中学から高校へと連続性を持たせるプログラムとして発展させてもらいたい。さらに、地域の様々な人々とのふれあいの場づくり (②) と活性化を図ってもらいたい。

・提言 2：中高生が、自主的・自発的に、安心して活動し、様々な人とふれあうことができる居場所の設置と、専門のコーディネーターの配置を行う。

中高生の活動範囲は、ともすれば家と学校、塾との往復になってしまい、決まった同質なメンバーとの付き合いになりがちである。そのほかにも、生徒の興味・関心を伸ばし、他者と関わりながら自由に活動することができる場の設置 (② ③) を望みたい。

その際には、その「居場所」を単なるスペースに終わらせず、生きた場にするためにも、専門のコーディネーターの配置を求めたい。コーディネーターの見守りの中で、地域ボランティアと連携し、中高生が自ら運営にも関わる機会をつくることで、多様な人々との交流が促進され、自主性やリーダーシップを伸ばすとともに、自己肯定感を高めることが期待できる (④)。

・提言3：「キャリアノート」等を積極的に活用するなど、将来を見据え、自己の成長をたどるキャリア教育を、家庭や地域と連携して推進する。

キャリア教育とは単なる職業意識の形成をめざすものではなく、自分の誕生から今までの自己形成の過程の振り返り、生活者としての自立、男女共同参画社会における就職や結婚、子育てといった将来展望まで様々な要素が詰まっている（① ③ ⑤）。

研究指定校や研究グループを設けるなどして、系統的なキャリア教育のモデルを示してもらいたい。

・提言4：生命の尊厳を認識し、人権意識を高めることは、全ての基礎である。西宮市における「教育振興基本計画」を新しい社会にふさわしい体系的な計画に見直し、推進する。

従来から人権教育は行われてきたが、今日的課題は増え続け、深刻化している現状の中、その課題解決のためには、「多様性の容認」「他者への温かなまなざし」など、基本となる人権感覚の醸成が必要不可欠であることは言うまでもない。

今一度、西宮市における「教育振興基本計画」が時代の変化を踏まえたものになっているか、育ちの道筋が誰にでもわかるような具体的なものになっているかを見直すことで、学校現場での研究・実践を後押ししてもらいたい。

同時に、家庭や地域に向け、男女共同参画社会の考え方や、人権意識を啓発する講演会やイベントを推進してもらいたい（④ ⑤）。

・提言5：旧来の性別役割分業意識から脱却し、男女共同参画社会を生きる生活者として自立した生き方ができるよう、行政のリーダーシップのもと家庭、地域、学校が連携した取り組みを展開する。

性別役割分業意識は長い年月をかけて形成されてきたものであり、社会の隅々まで根強く残っており、その変革には官民一体となった取り組みを行い、大きな流れにすることが不可欠である。

生活者として自立し、家庭生活を営むには、家事や栄養管理、家計管理などを男女の別なく、協同しながら実践する能力が求められる。中学校・高校で必修となっている家庭科での学習を始め、シティズンシップ教育としての社会科公民分野での学習等（③ ④ ⑤）が家庭・地域・社会で生かされるよう、市民意識の変革のための取り組みを展開したいものである。

例えば、「思いやりのある西宮っ子を育てる5つの実践目標」のような具体的な「実践目標」の設定を期待したい。

平成27・28年度期 西宮市青少年問題協議会委員一覧表

(順不同 敬称略)

	氏名	推薦団体・役職名	任期
学 識 経 験 者	◎安 東 由 則 <small>あん どう よし のり</small>	武庫川女子大学 教授	H27.6.1 から H29.5.31 まで
	○本 田 英 子 <small>ほん だ ひで こ</small>	甲南大学教職教育センター教職指導員 元兵庫県人権啓発協会研修講師	H27.6.1 から H29.5.31 まで
	田 中 富 美 子 <small>た なか ふ み こ</small>	西宮市青少年愛護協議会 副会長	H27.6.1 から H28.5.17 まで
	田 村 信 道 <small>た むら のぶ みち</small>	西宮市青少年愛護協議会 副会長	H28.5.18 から H29.5.31 まで
	中 野 睦 子 <small>なか の むつ こ</small>	西宮市PTA協議会 副会長	H27.6.1 から H28.4.30 まで
	岩 本 佳 菜 子 <small>いわ もと か な こ</small>	西宮市PTA協議会 副会長	H28.5.1 から H29.3.31 まで
	高 瀬 京 子 <small>たか せ きょう こ</small>	西宮市民生委員・児童委員会 副会長	H27.6.1 から H29.5.31 まで
	林 真 咲 <small>はやし ま さき</small>	地域子育て支援センター つばみのひろば施設長	H27.6.1 から H29.5.31 まで
関 係 行 政 機 関	まつ むら ま ゆみ 松 村 真 弓	転勤族ママ&キッズ探検隊 i n 西宮 代表	H27.6.1 から H29.5.31 まで
	おか もと えつ じ 岡 本 悦 司	西宮市立上ヶ原中学校長 (西宮市校園長会)	H27.6.1 から H28.4.30 まで
	かな じ たみ き 金 地 民 樹	西宮市立高須中学校長 (西宮市校園長会)	H28.5.1 から H29.5.31 まで
	あ だち とし き 足 立 年 樹	西宮市立西宮東高等学校校長	H27.6.1 から H29.5.31 まで
	はま うえ とも ひこ 濱 上 智 彦	兵庫県阪神南県民センター 県民交流室 青少年指導官	H27.6.1 から H28.3.31 まで
おぎ ひろ ゆき 荻 裕 之	兵庫県阪神南県民センター 県民交流室 青少年指導官	H28.4.1 から H29.5.31 まで	
市 民	いわ はら ただし 岩 原 正	公募委員 (会社役員)	H27.6.1 から H29.5.31 まで
	みや もと く み こ 宮 本 久 美 子	公募委員 (幼児教育・ピアノ指導)	H27.6.1 から H29.5.31 まで

◎会長 ○副会長

平成27・28年度期 西宮市青少年問題協議会の協議経過

開催日	会議名	主な協議内容
27. 6. 4	会長・副会長会	第1回定例会の運営について協議
27. 7. 24	第1回定例会	会長の選出 今年度の協議事項について
27. 9. 10	会長・副会長会	定例会の進行について協議
27. 10. 8	第2回定例会	協議「次世代の親を育成するために」 中高生対象のアンケートについて
27. 10. 30	会長・副会長会	第3回定例会の運営について協議
27. 11. 26	第3回定例会	協議「次世代の親を育成するために」 中高生対象のアンケートについて
27. 12. 17	会長・副会長会	第4回定例会の進行について協議
28. 1. 28	第4回定例会	協議「次世代の親を育成するために」 中高生対象のアンケートについて
28. 3. 22	会長・副会長会	第5回定例会の運営について協議
28. 4. 22	会長・副会長会	第5回定例会の運営について協議
28. 5. 19	第5回定例会	協議「次世代の親を育成するために」
28. 6. 16	会長・副会長会	第6回定例会の運営について協議
28. 7. 15	第6回定例会	提言の原案について
28. 8. 29	会長・副会長会	臨時会の運営について協議
28. 10. 13	臨時会	こども支援局実施「中高生ミーティング」について
28. 10. 28	会長・副会長会	第7回定例会の運営について協議
28. 11. 9	第7回定例会	提言の原案について
28. 12. 22	会長・副会長会	提言の原案について協議
29. 1. 19	会長・副会長会	第7回定例会の運営について協議
29. 2. 17	第8回定例会	提言の整理とまとめ
29. 3. 22	会長・副会長会	提言最終まとめ
29. 3. 28		提言を市長へ提出

中高生の将来像に関するアンケート調査

平成28年2月実施

目 次

中高生の将来像に関するアンケート調査の概要	1
中高生の将来像に関するアンケート調査	2
調査結果の単純集計	6
クロス集計とカイニ乗検定結果	19

中高生の将来像に関するアンケート調査の概要

1. 調査の目的

西宮市青少年問題協議会では、中高生の結婚観、子育て観等の現状を把握し、今期のテーマである「次世代の親を育成するために」の協議を深めるために、アンケート調査を実施する。

2. 調査内容

- 家事手伝いの頻度や地域でのふれあい経験について
- 結婚願望と結婚へのイメージについて
- 子どもを持つイメージについて
- 仕事や働き方のイメージについて 等

3. 調査方法

① 調査対象

- ・西宮市立中学校（全20校） 2年生全員（4,008名）
- ・西宮市立高等学校（全2校） 2年生全員（584名）

② 調査方法

各学校への郵送配布・回収方式による、無記名自記式のアンケート法

③ 調査時期

平成28年2月4日～2月26日

4. 対象者の内訳と有効回答率

	中学校				高校		
	総数	男性	女性	不明	総数	男性	女性
対象校在籍数(人)	4,008	2,095	1,913		584	299	285
回答者数(人)	3,661	1,888	1,767	6	561	283	278
回答率(%)	91.34	90.12	92.37		96.06	94.65	97.54

中高生の将来像に関するアンケート調査

中学生・高校生の皆様へ

私たち、西宮市青少年問題協議会では、次世代の親を育成するために中学生・高校生に対してどのような政策・対策が必要かを市長に提案するために、協議しています。

このアンケートでは、西宮市の将来を担う中学生・高校生の皆様に、結婚や子育て、働くということについてどのように考えているのか、将来についてどのように思っているのかなどを、教えていただくものです。

この調査の結果をもとに、西宮市の青少年に関する政策・対策について協議していきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。

西宮市青少年問題協議会
会長 安東 由則

●記入上の注意

1. このアンケートは、あなた自身が対象となります。回答は、友達と相談せず、あなたの考えを教えてください。
2. 回答は、選択肢に○をつけて選ぶ場合と、数字などをご記入する場合があります。
3. 選択肢の場合、複数回答となっている設問もありますので、指示に従って回答してください。また、「その他」を選んだ場合は、()内に具体的な内容を記入してください。

●調査についてのお問い合わせ先

西宮市子ども支援局子供支援総括室青少年施策推進課 TEL 0798-35-3429

1. あなた自身・家族のことについてお伺いします

問1 性別を教えてください。

1. 男性

2. 女性

問2 きょうだいについて教えてください。

1. ()人きょうだいの()番め 2. いない

問3 あなたは自分の家で、家事の手伝いをしていますか。

1. よくしている

2. まあまあしている

3. たまにしている

4. ほとんどしていない

5. まったくしていない

問4 学校・家庭以外の、近所・親戚・しんせき地域活動などで、年齢や世代の違う人と一緒に話す機会がありますか。

1. よくある

2. まあまあある

3. たまにある

4. ほとんどない

5. まったくない

問5 あなたは、中学生になって以降、学校の授業や行事以外で、0歳～3歳くらいの乳幼児と触れ合う機会はありましたか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. 常に乳幼児と触れ合う機会がある | 2. 年に3回以上ある |
| 3. 年に1～2回程度ある | 4. まったくない |

2. あなたの結婚観についてお伺いします

問6 あなたは、将来、結婚したいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1. 結婚したいと思う → (歳ごろ) | 2. あまり結婚したいと思わない |
| 3. よくわからない | |

問7 あなたは、結婚について、どのようなイメージをもっていますか。(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1. 好きな人といっしょにいられる | 2. 精神的、経済的に安定する |
| 3. 子供が持てる | 4. 親から独立する |
| 5. 親を喜ばせることができる | 6. 時間やお金を自由に使えなくなる |
| 7. 家事をするのが大変そう | 8. 子育てするのが大変そう |
| 9. 家事が楽になるなど、生活が便利になる | 10. 相手の家族・親族とのつき合いがめんどう |
| 11. 他人と家族になるのがめんどう | 12. よくわからない |

問8 あなたは、家庭において、子育てを含む家事をどのようにするのがよいと思いますか。(〇は1つ)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 男性・女性が同じ程度分担してやればよいと思う |
| 2. 男性・女性の区別なく、できる人がやればよいと思う |
| 3. 主に男性がした方がよいと思う |
| 4. どちらかといえば男性がした方がよいと思う |
| 5. どちらかといえば女性がした方がよいと思う |
| 6. 主に女性がした方がよいと思う |
| 7. よくわからない |
| 8. その他(具体的に: _____) |

3. あなたの子育て観についてお伺いします

問9 理想として、子供は何人ぐらいほしいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 1人 | 2. 2人 |
| 3. 3人 | 4. 4人以上 |
| 5. 子供はほしいと思わない | 6. よくわからない |

問10 現実として、子供を育てられるのは何人ぐらいだと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------|------------|
| 1. 1人 | 2. 2人 |
| 3. 3人 | 4. 4人以上 |
| 5. 子供はほしいと思わない | 6. よくわからない |

問11 子供を持つことについて、どのようなイメージをもっていますか。(〇は3つまで)

- | | |
|------------------------------|----------------------|
| 1. 子供を生んで育てるのは当然のことだと思う | 2. 自分の子供はかわいいと思う |
| 3. 老後が安心である | 4. 子育てを通して人間として成長できる |
| 5. 親の期待にこたえられる | 6. 自由な時間がなくなる |
| 7. 子育ては、お金や手間がかかり負担が大きい | 8. 子供はわずらわしい |
| 9. 社会環境が悪化しているので、子供の将来が心配である | |
| 10. その他 (具体的に :) | |
| 11. よくわからない | |

4. あなたの働き方のイメージについてお伺いします

問12 あなたは仕事について、どのようなイメージを持っていますか。(〇は3つまで)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. お金をかせぐ | 2. やりがいがあり、夢を実現できる |
| 3. 仕事を通していろいろな体験ができる | 4. 仕事を通していろいろな人に出会える |
| 5. 親や周りの期待にこたえる | 6. 働くのは当たり前である |
| 7. 仕事は大変そうである | 8. 自由な時間が少なくなる |
| 9. その他 (具体的に :) | 10. よくわからない |

問13 あなたは、将来、どのような働き方がしたいと思いますか。(〇は3つまで)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 自分の能力を発揮できる、やりがいのある仕事につきたい |
| 2. 収入の高い仕事につきたい |
| 3. 収入や雇用の安定した仕事につきたい |
| 4. 自分で会社をおこしたい |
| 5. 親の仕事を継ぎたい |
| 6. アルバイトやパートなどで自由な仕事をしたい |
| 7. 1つのところで定年まで働かず、転職していくつかの仕事をした |
| 8. 時間にゆとりのある仕事につきたい |
| 9. できれば働きたくない |
| 10. その他 (具体的に :) |
| 11. 特に考えていない |

問14 将来、あなたが結婚した場合、自分の仕事をどうしたいですか。(〇は1つ)

1. 結婚後も、ずっと働きたい
2. 結婚したら仕事を辞めたい
3. 子供ができたら仕事を辞めたい
4. 結婚後、あるいは子育てが一段落した後、仕事に復帰したい
5. その他(具体的に:)

問15 将来、あなたが結婚した場合、結婚相手には仕事をどうしてほしいですか。(〇は1つ)

1. ずっと働き続けてほしい
2. 結婚したら、仕事を辞めてほしい
3. 子供ができたら、仕事を辞めてほしい
4. 結婚後、あるいは子育てが一段落した後、仕事に復帰してほしい
5. その他(具体的に:)

問16 あなたは、男性が育児休業(休暇)*をとることについてどう考えていますか。(〇は1つ)

1. ぜひ取るべきだ
2. できれば取ったほうがよい
3. あまり取らないほうがよい
4. 取るべきではない
5. わからない

※育児休業(休暇)とは…法律に基づいて、1歳になるまでの子を育てるために仕事を休むこと。

5. あなたの将来についてお伺いします

問17 あなたは、将来、就きたい職業はありますか。(〇は1つ)

1. ある
2. なんとなくある
3. ない
4. 考えたことがない

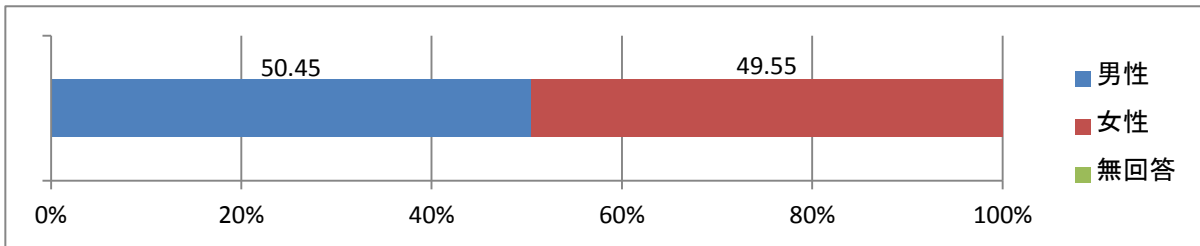
問18 あなたは、将来の社会生活について、どのような心配事や不安はありますか。(〇はいくつでも)

1. ない
2. 就職できるか
3. 経済的に自立できるか
4. 結婚できるか
5. 子育てがうまくできるか
6. その他(具体的に:)

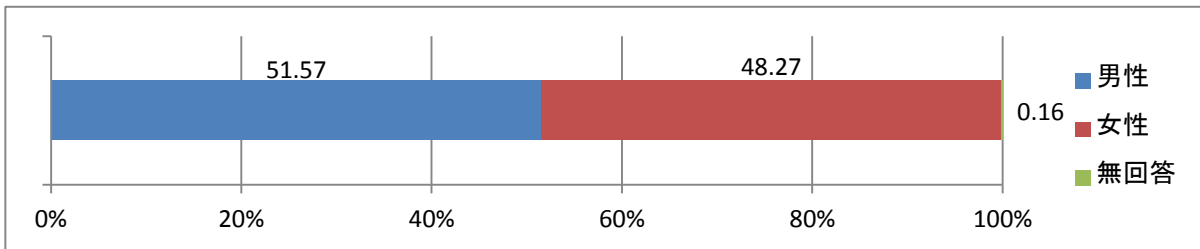
アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。
記入もれや誤りがないか、再度ご確認ください。

調査結果の単純集計

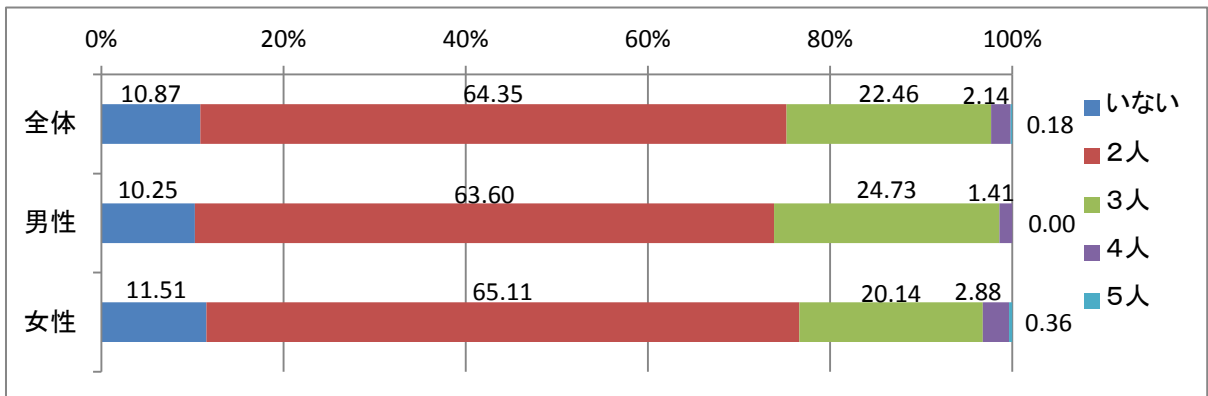
問1 性別を教えてください。
高校生



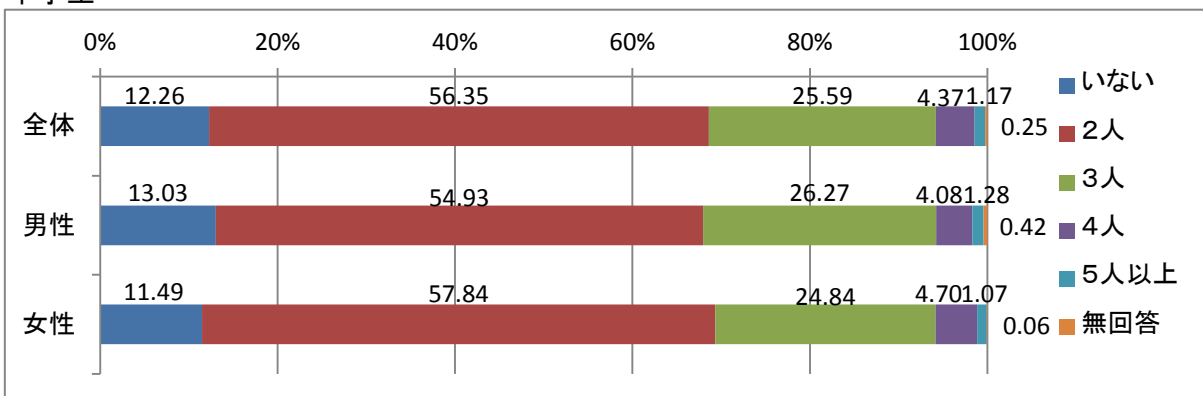
中学生



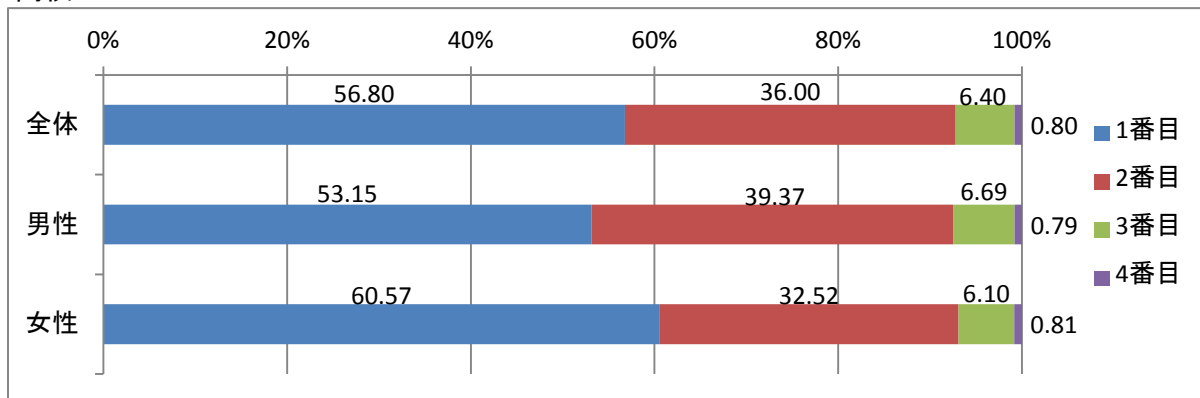
問2 きょうだいについて教えてください。
●何人きょうだい
高校生



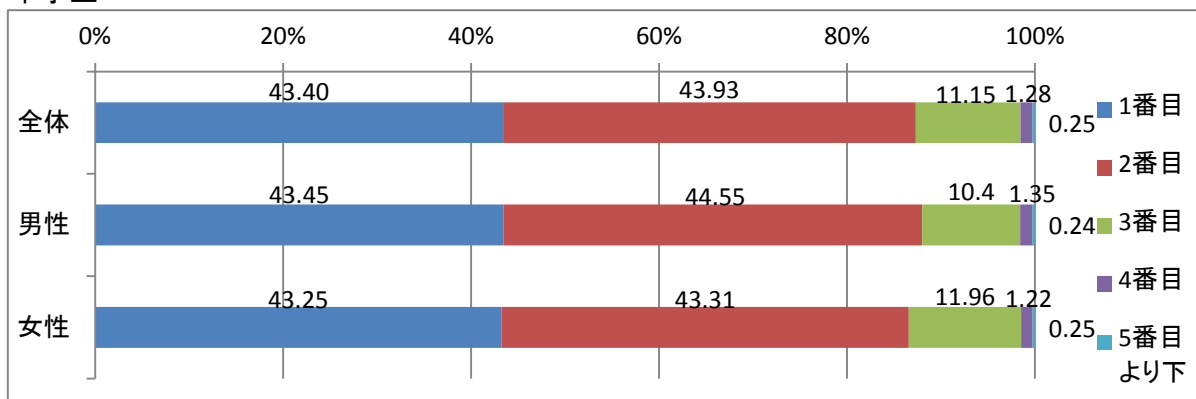
中学生



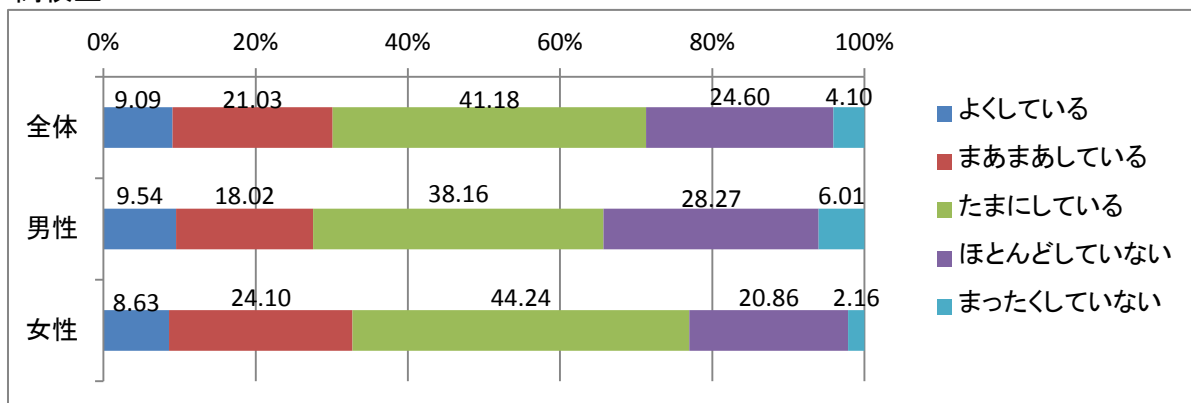
●何番目
高校生



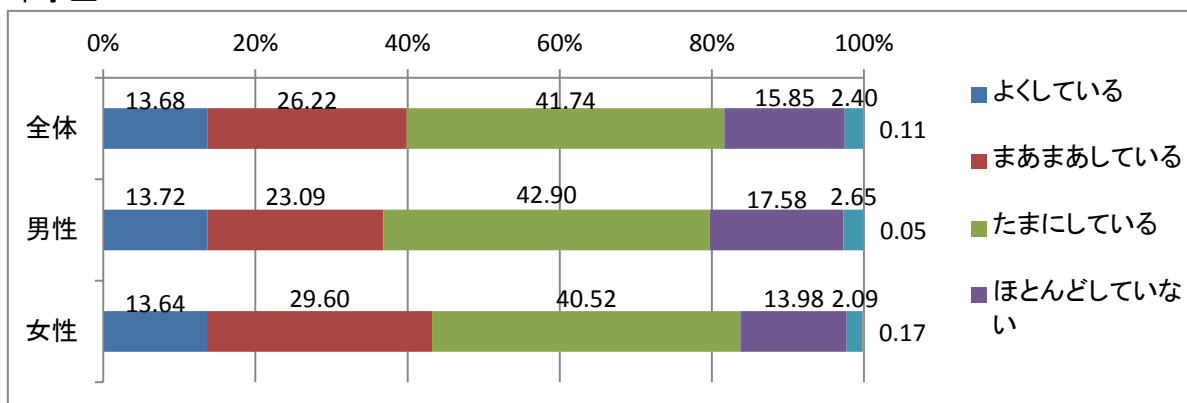
中学生



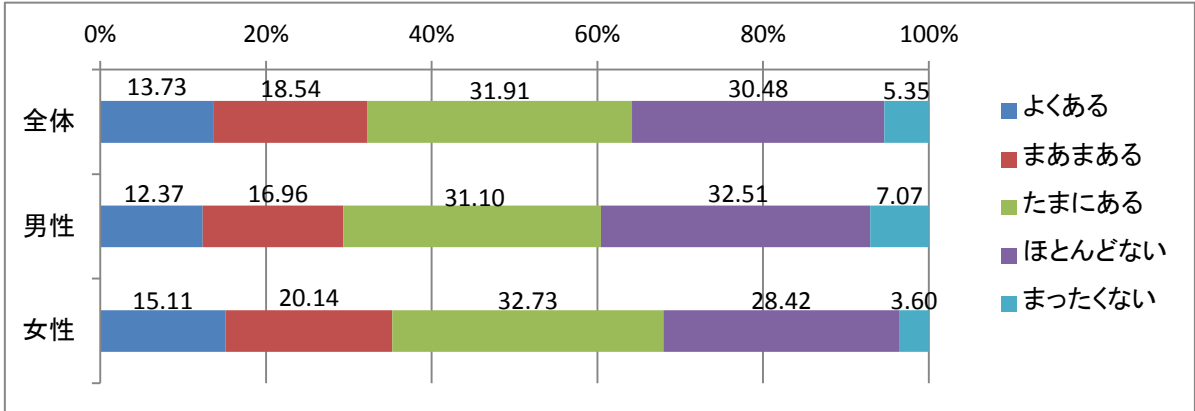
問3 あなたは自分の家で、家事の手伝いをしていますか。
高校生



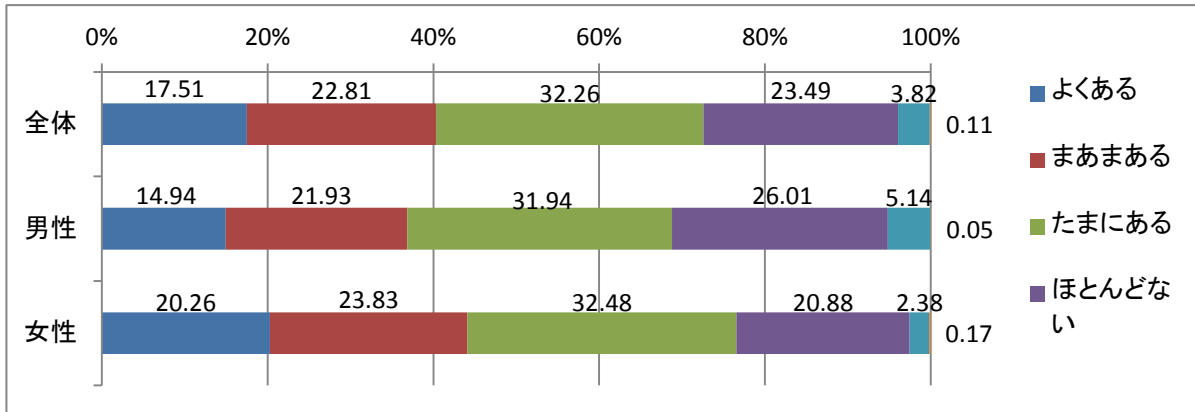
中学生



問4 学校・家庭以外の、近所・親戚・地域活動などで、年齢や世代の違う人と一緒に話す機会がありますか。
高校生

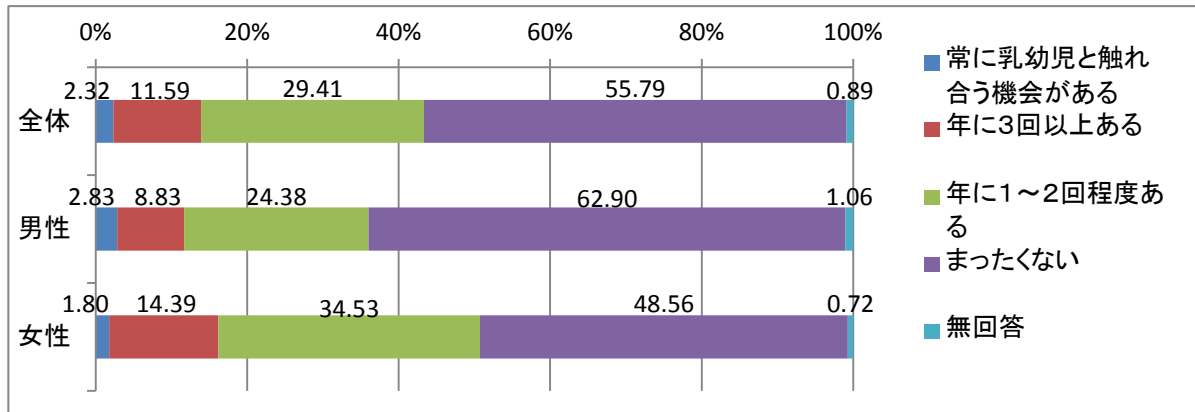


中学生

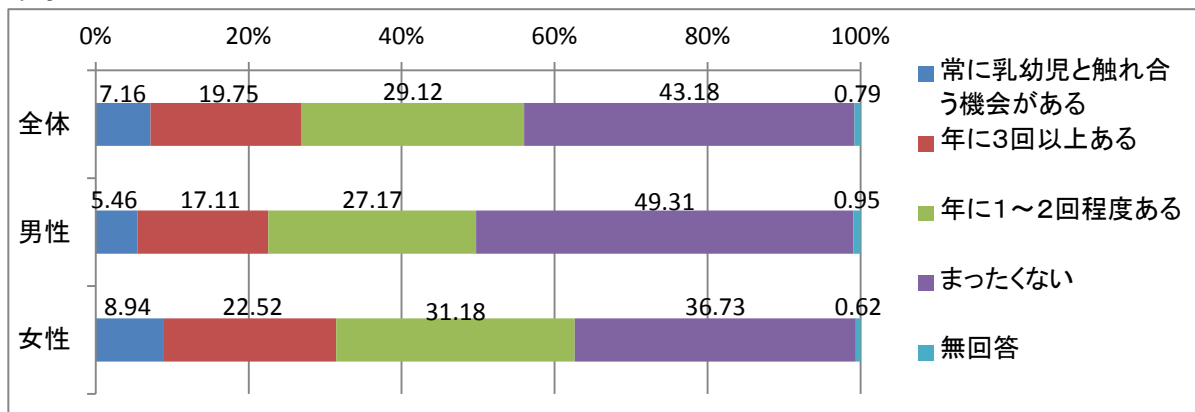


問5 あなたは、中学生になって以降、学校の授業や行事以外で、0歳～3歳くらいの乳幼児と触れ合う機会がありましたか。

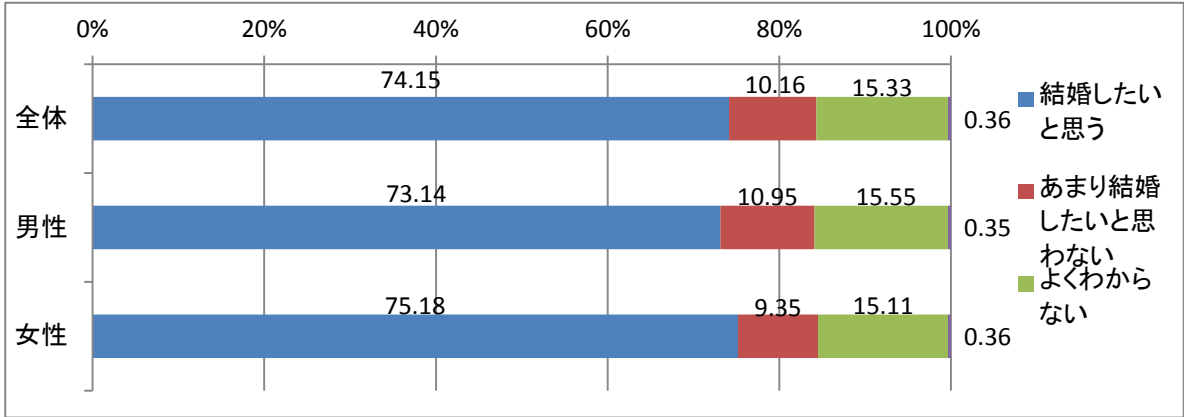
高校生



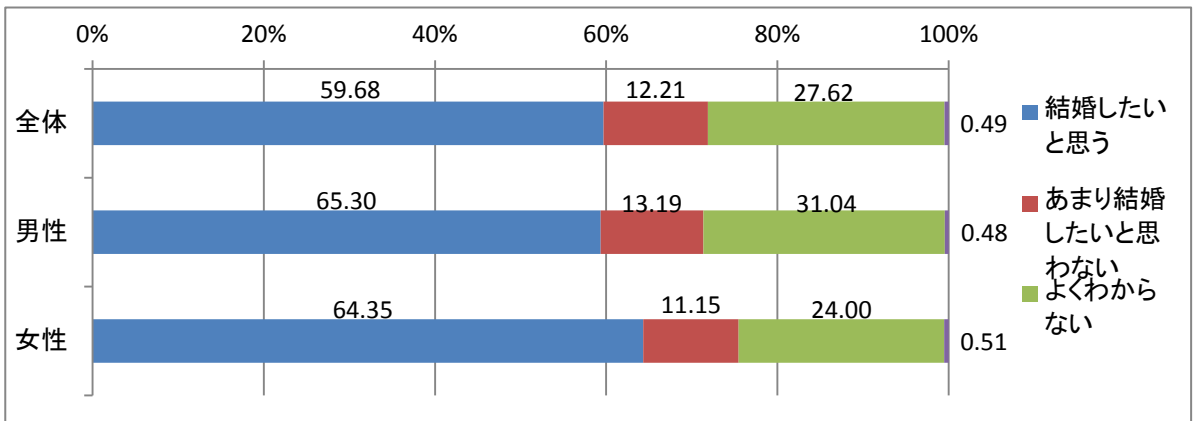
中学生



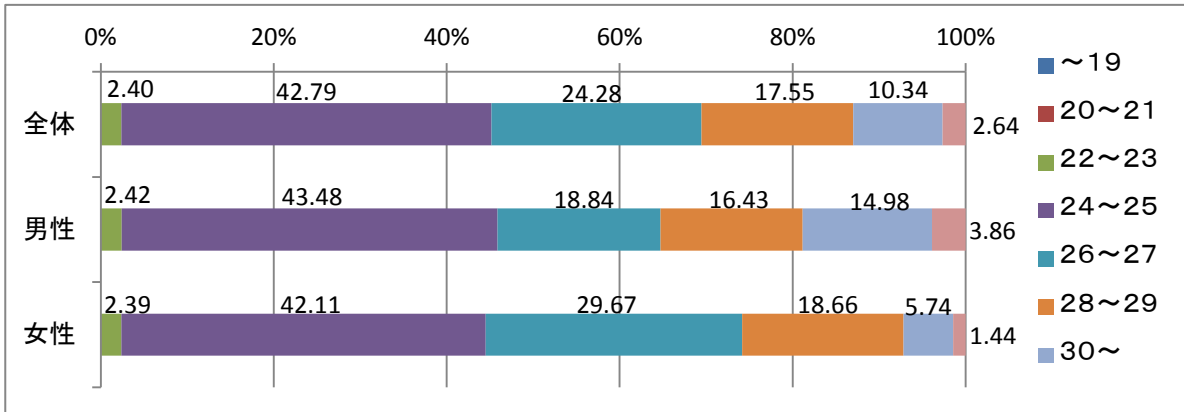
問6 あなたは、将来、結婚したいと思いますか。
高校生



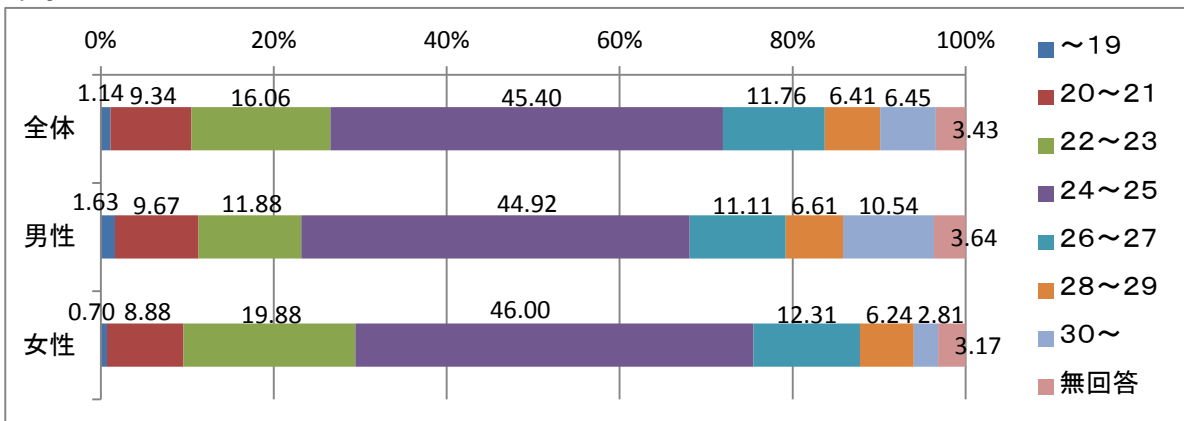
中学生



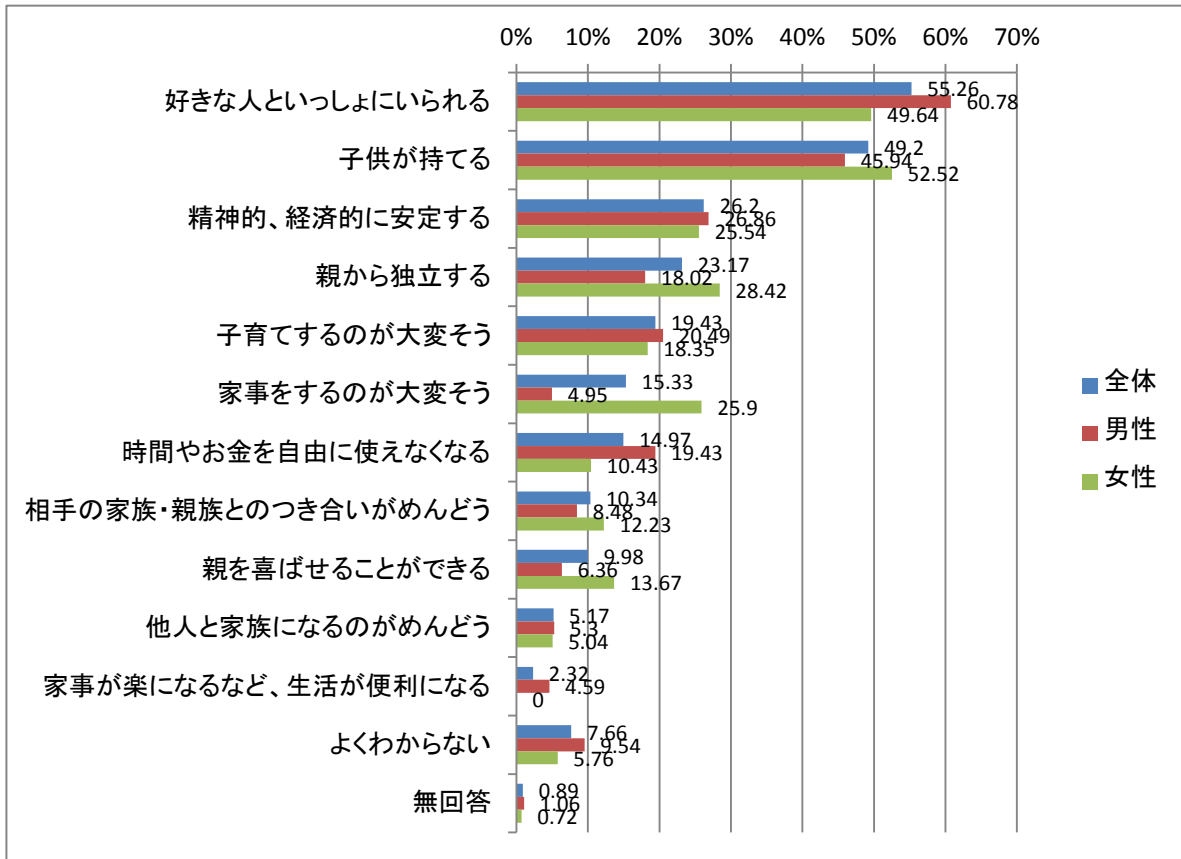
●結婚したい年齢
高校生



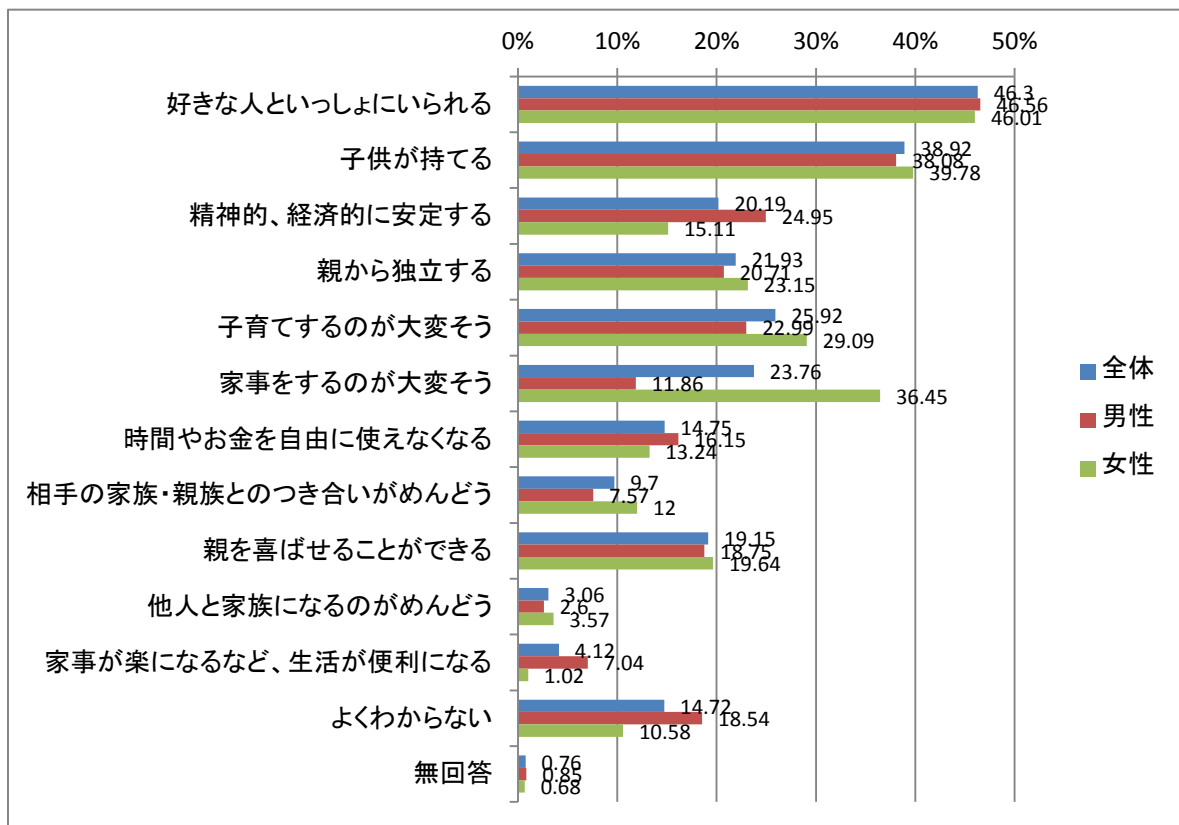
中学生



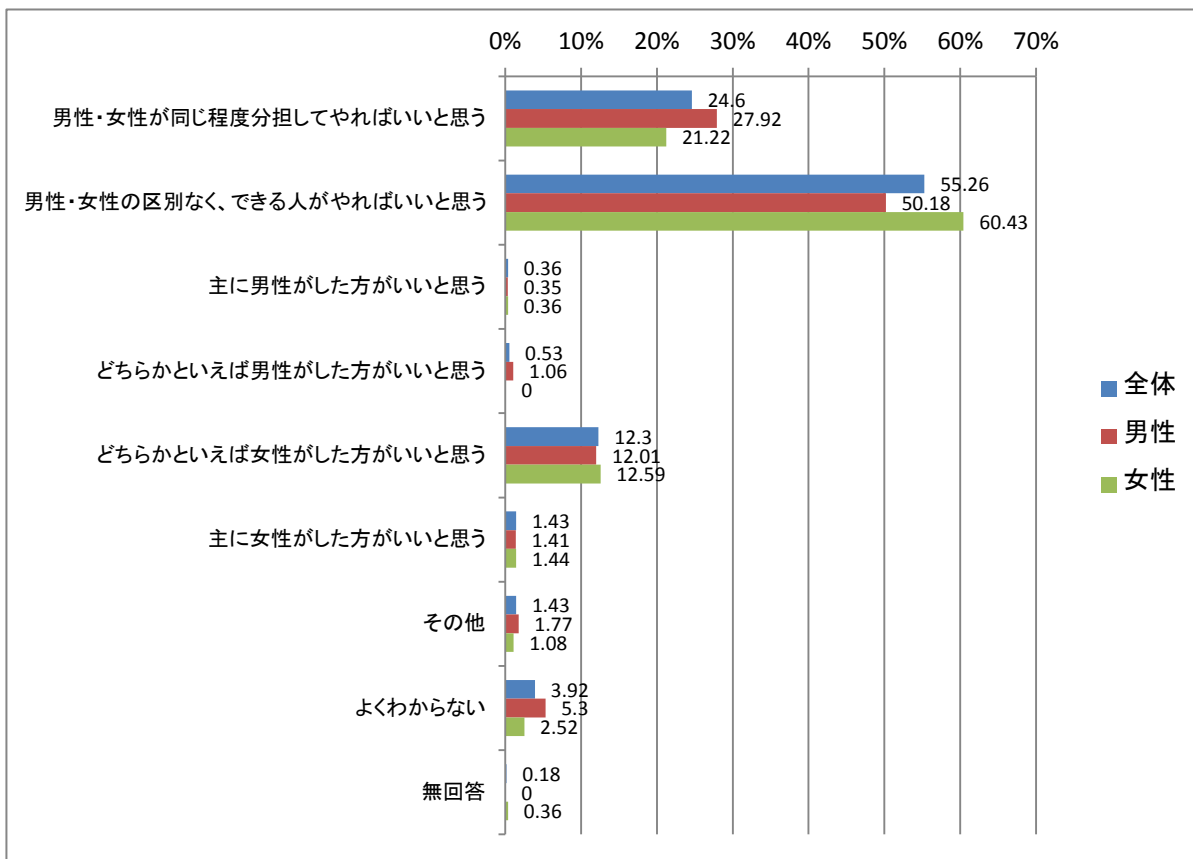
問7 あなたは、結婚について、どのようなイメージをもっていますか。(〇は3つまで)
高校生



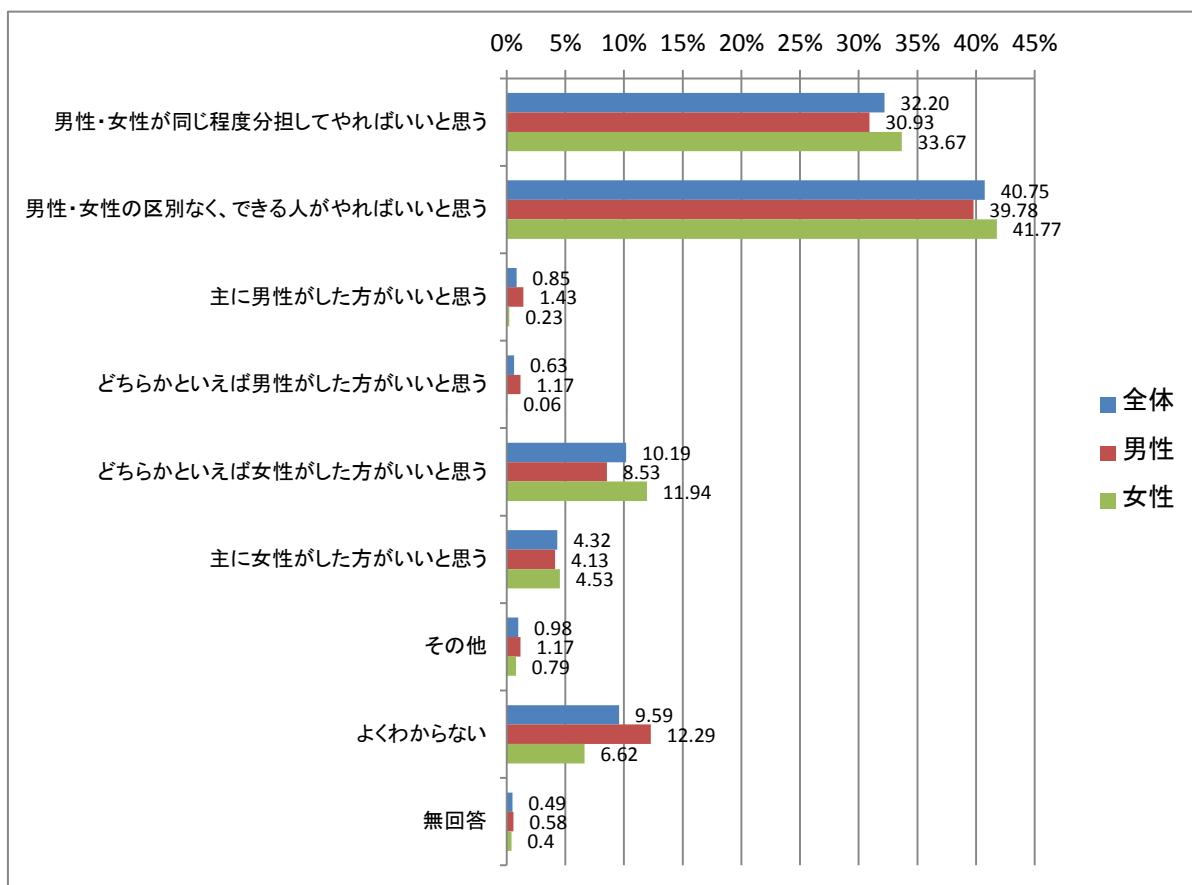
中学生



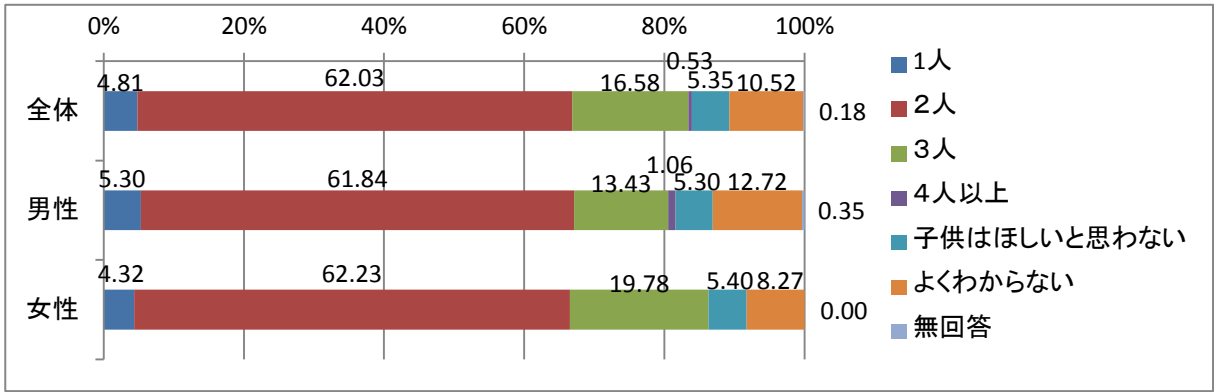
問8 あなたは、家庭において、子育てを含む家事をどのようにするのがよいと思いますか。
高校生



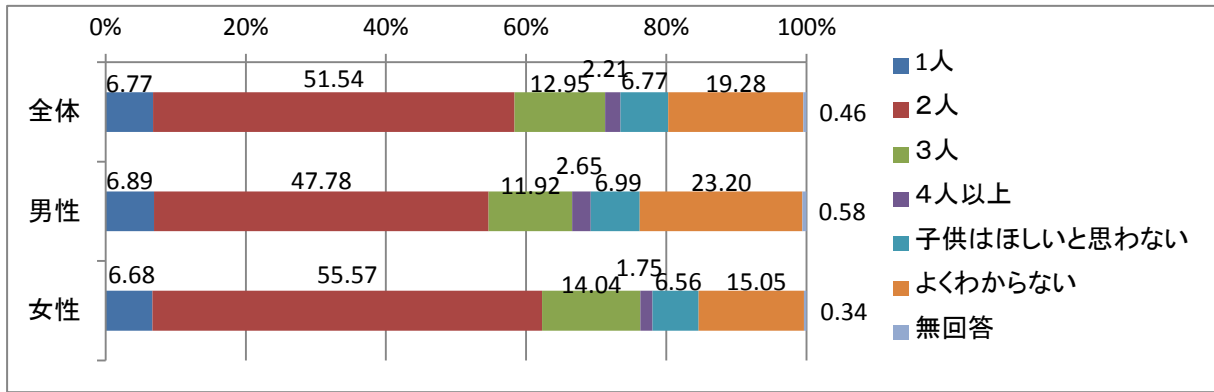
中学生



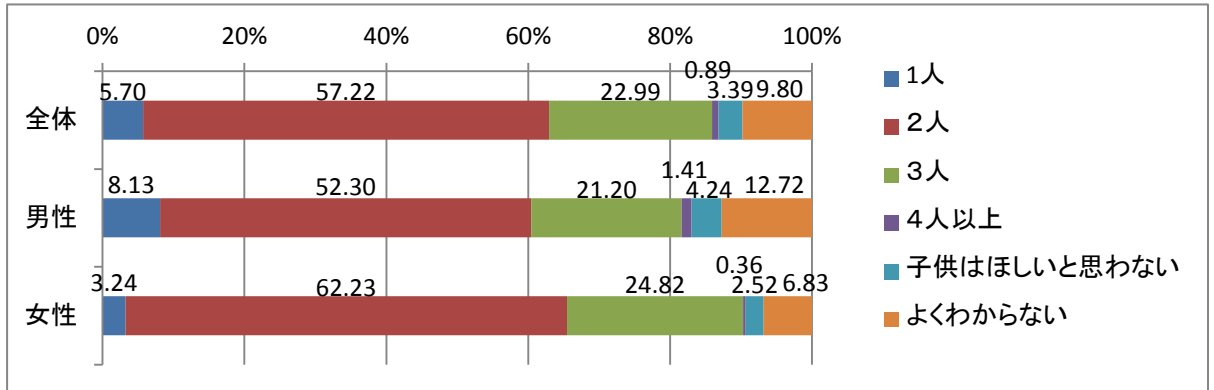
問9 理想として、子供は何人ぐらいほしいと思いますか。
高校生



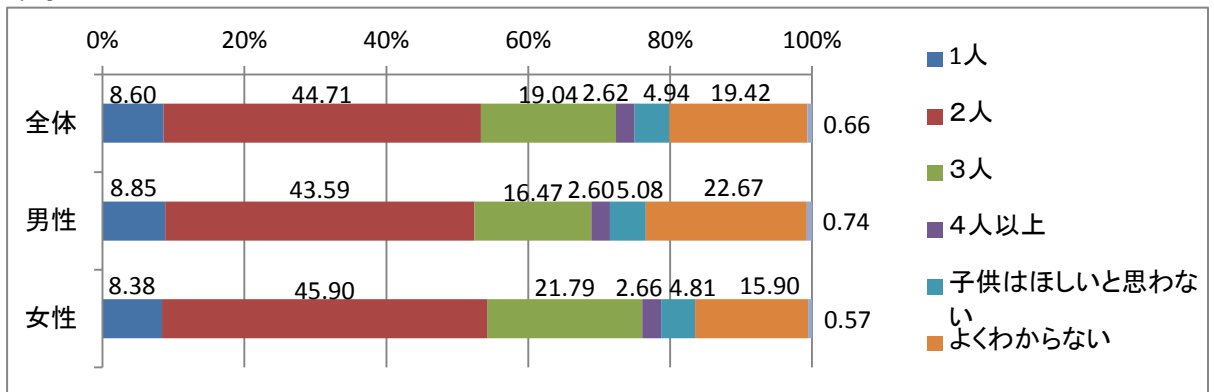
中学生



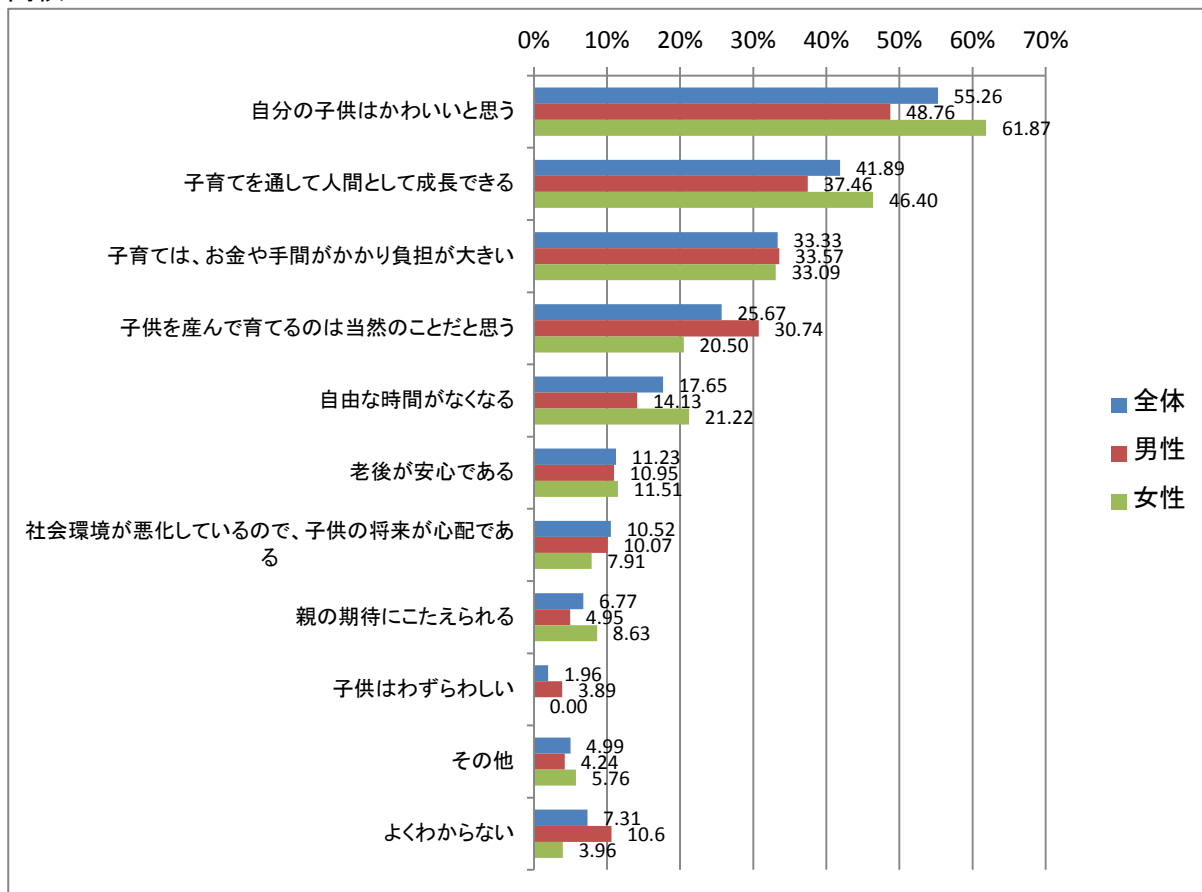
問10 現実として、子供を育てられるのは何人ぐらいだと思いますか。
高校生



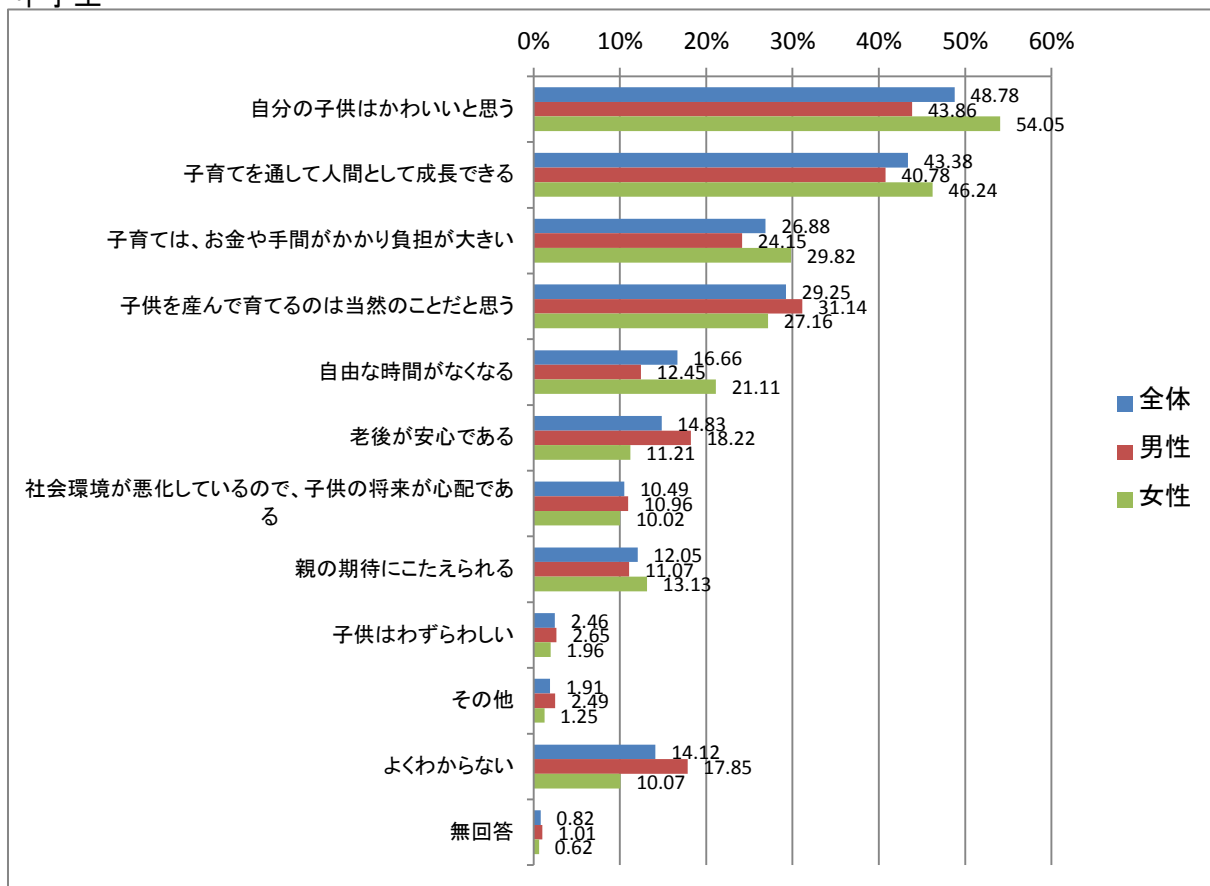
中学生



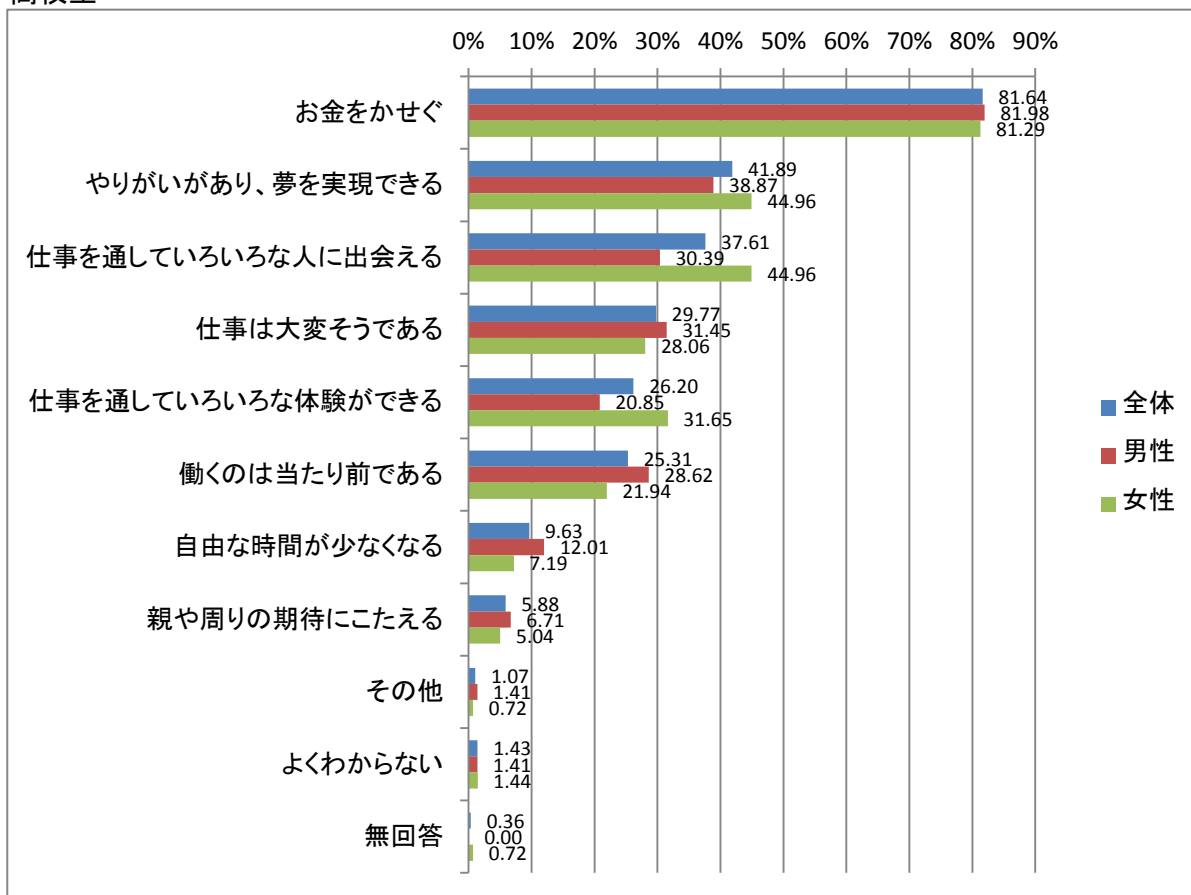
問11 子供を持つことについて、どのようなイメージをもっていますか。(〇は3つまで)
高校生



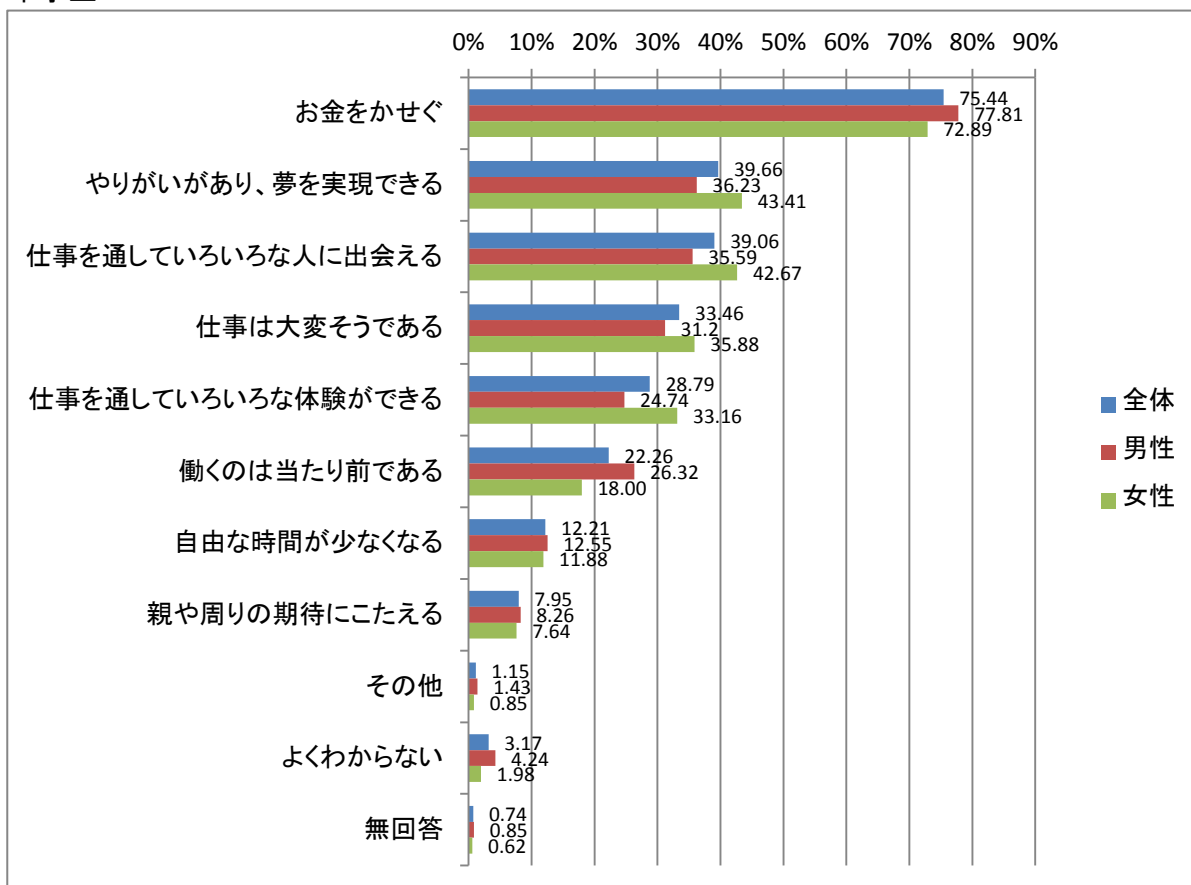
中学生



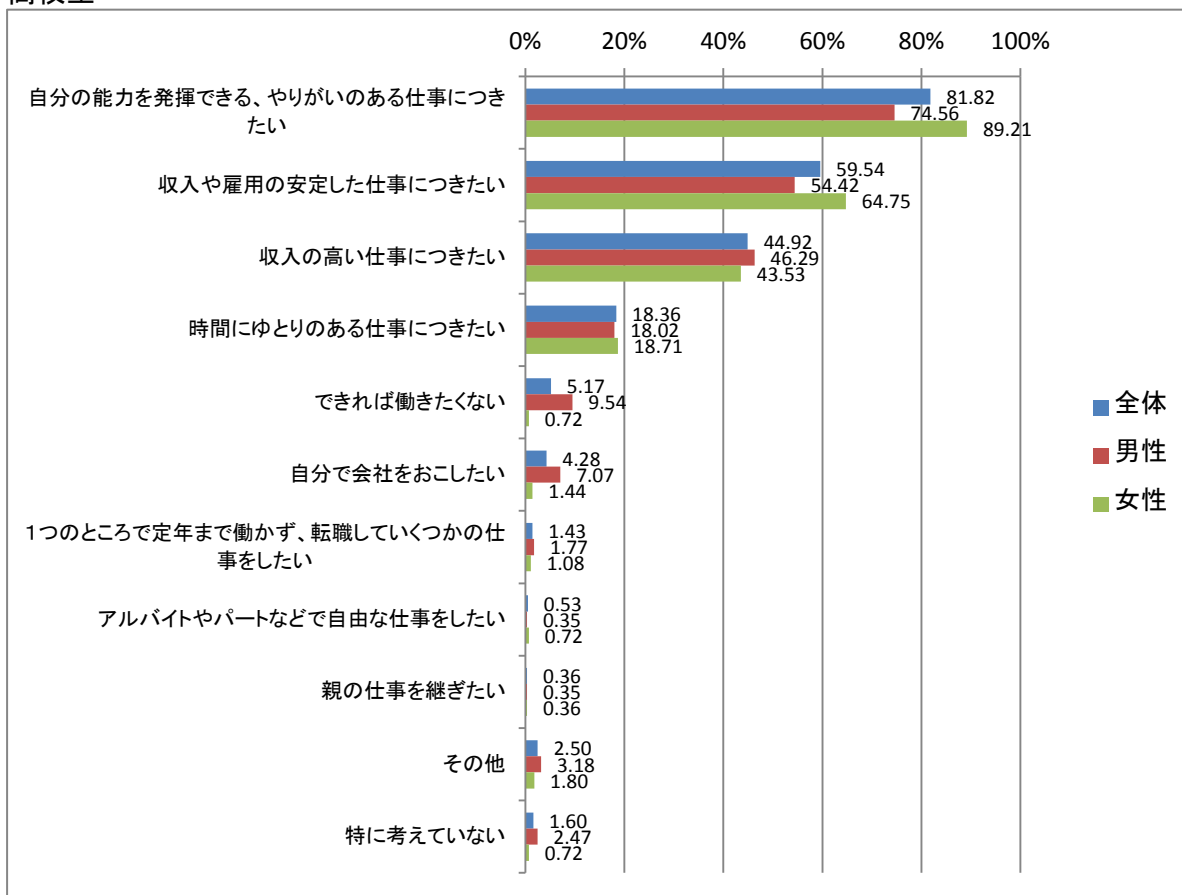
問12 あなたは仕事について、どのようなイメージを持っていますか。(〇は3つまで)
高校生



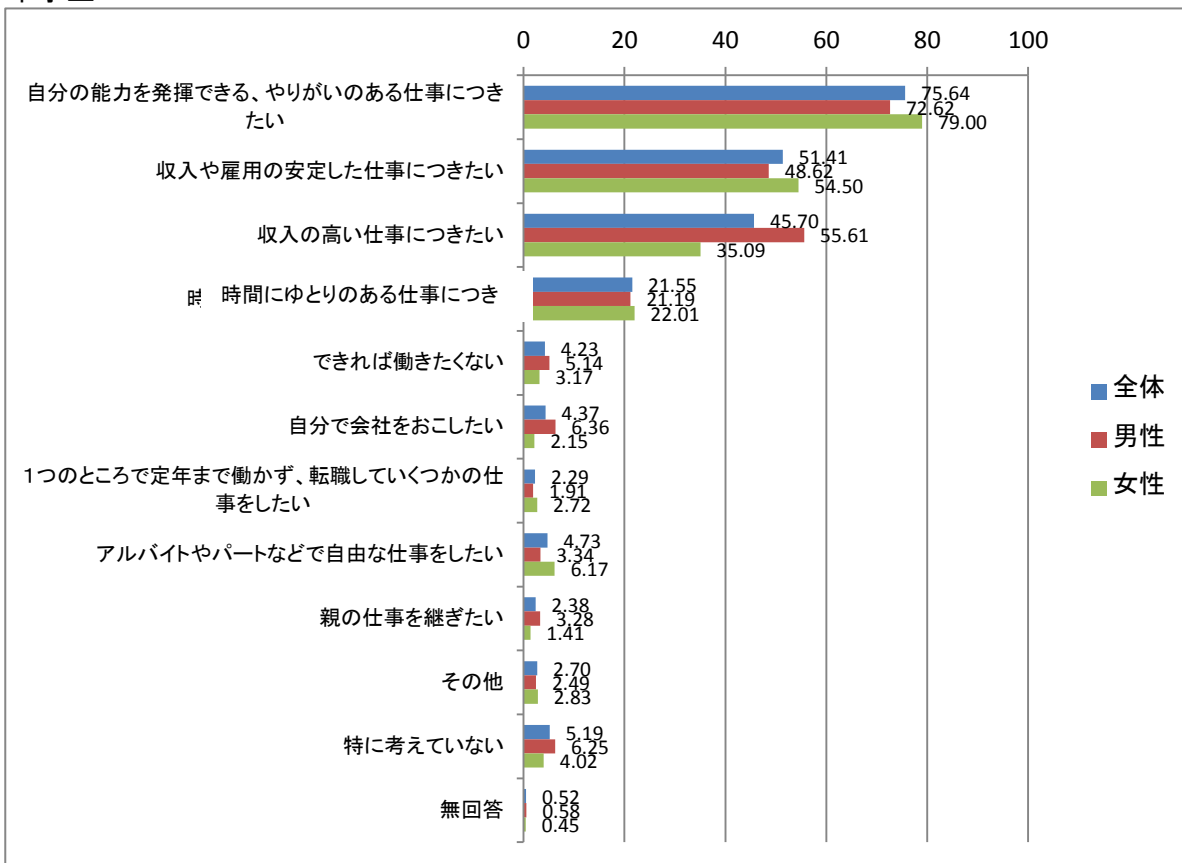
中学生



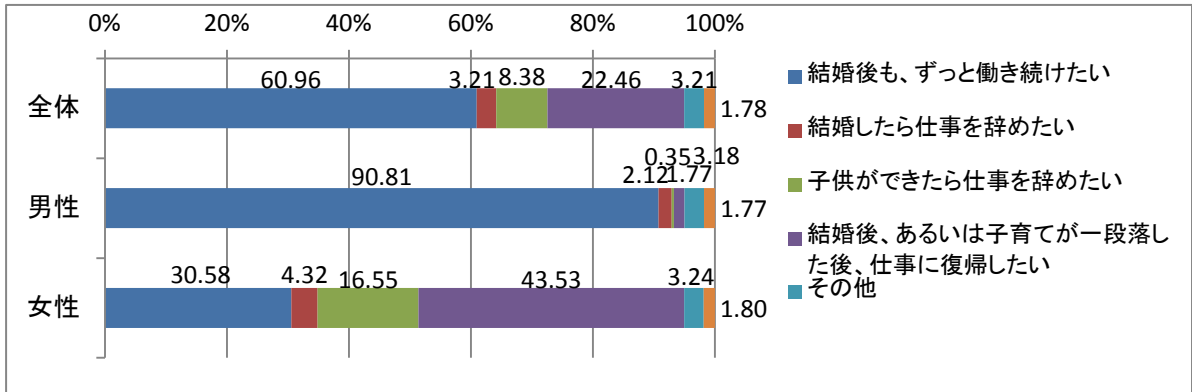
問13 あなたは、将来、どのような働き方がしたいと思いますか。(〇は3つまで)
高校生



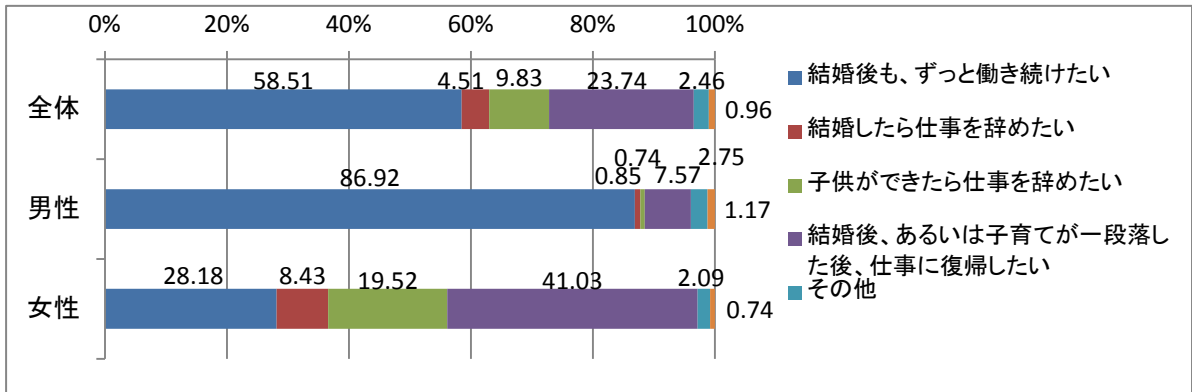
中学生



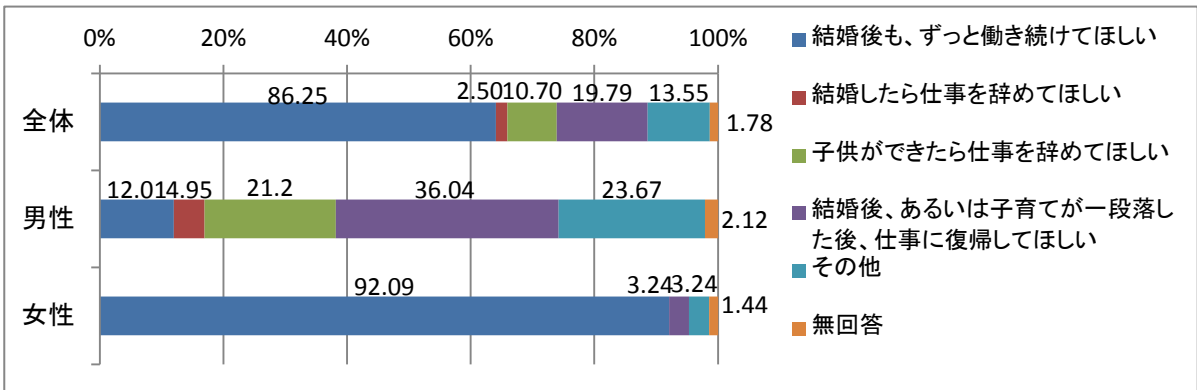
問14 将来、あなたが結婚した場合、自分の仕事をどうしたいですか。
高校生



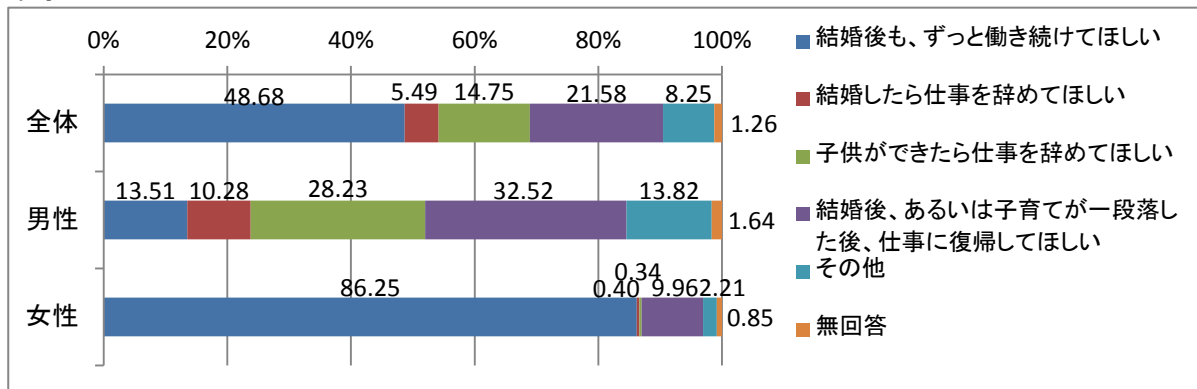
中学生



問15 将来、あなたが結婚した場合、結婚相手には仕事をどうしてほしいですか。
高校生

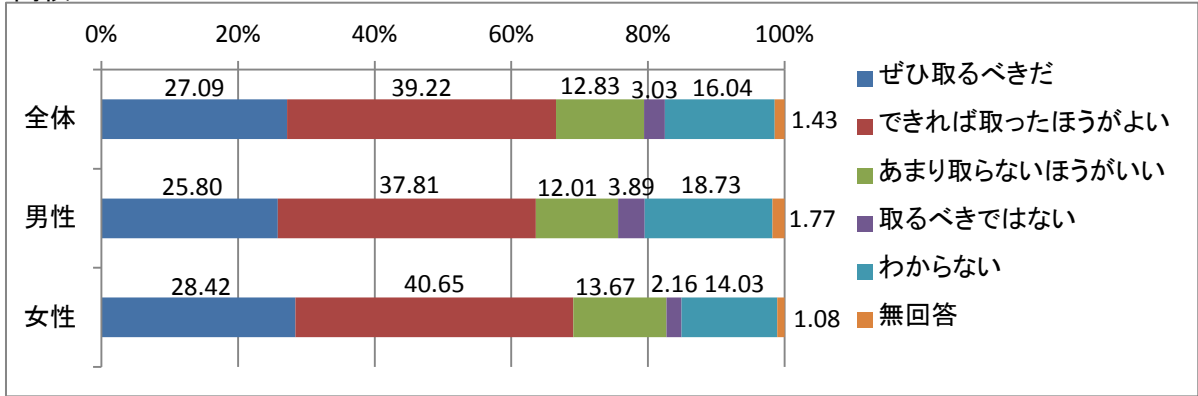


中学生

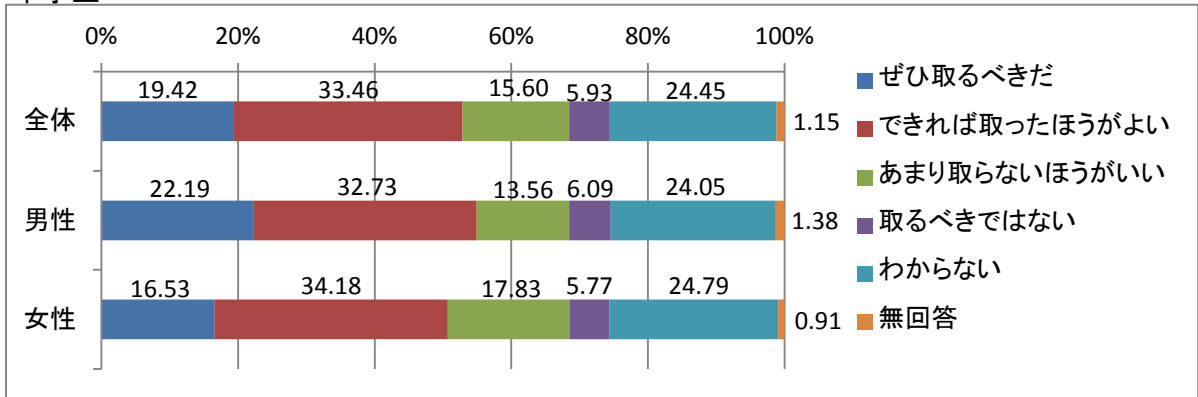


問16 あなたは、男性が育児休業(休暇)をとることについて、どう考えていますか。

高校生

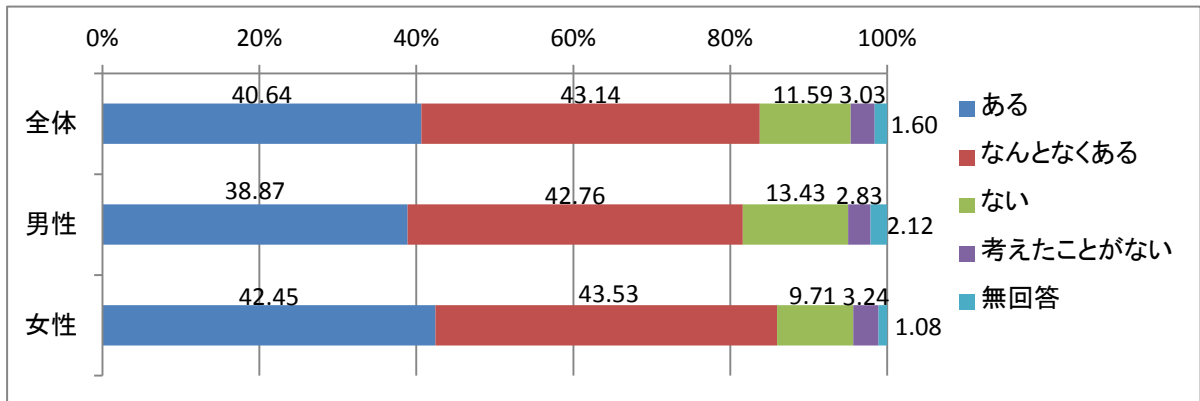


中学生

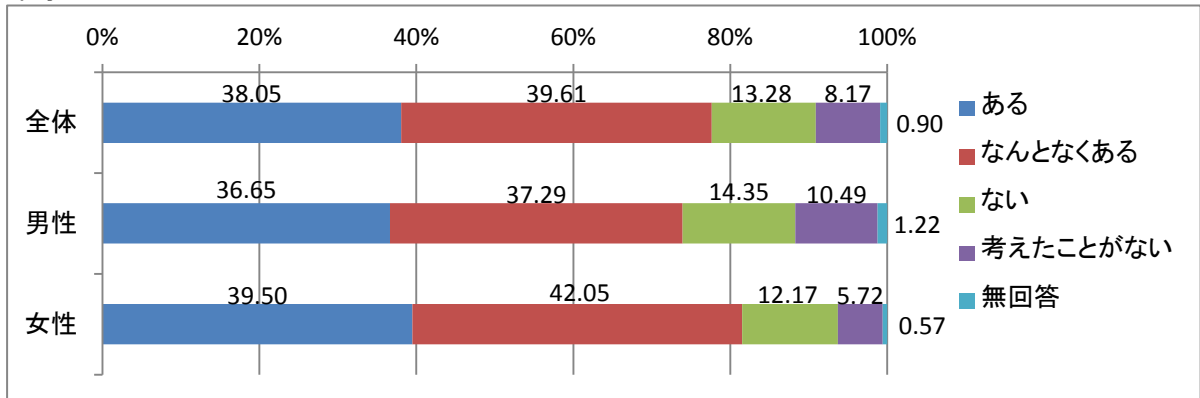


問17 あなたは、将来、就きたい職業はありますか

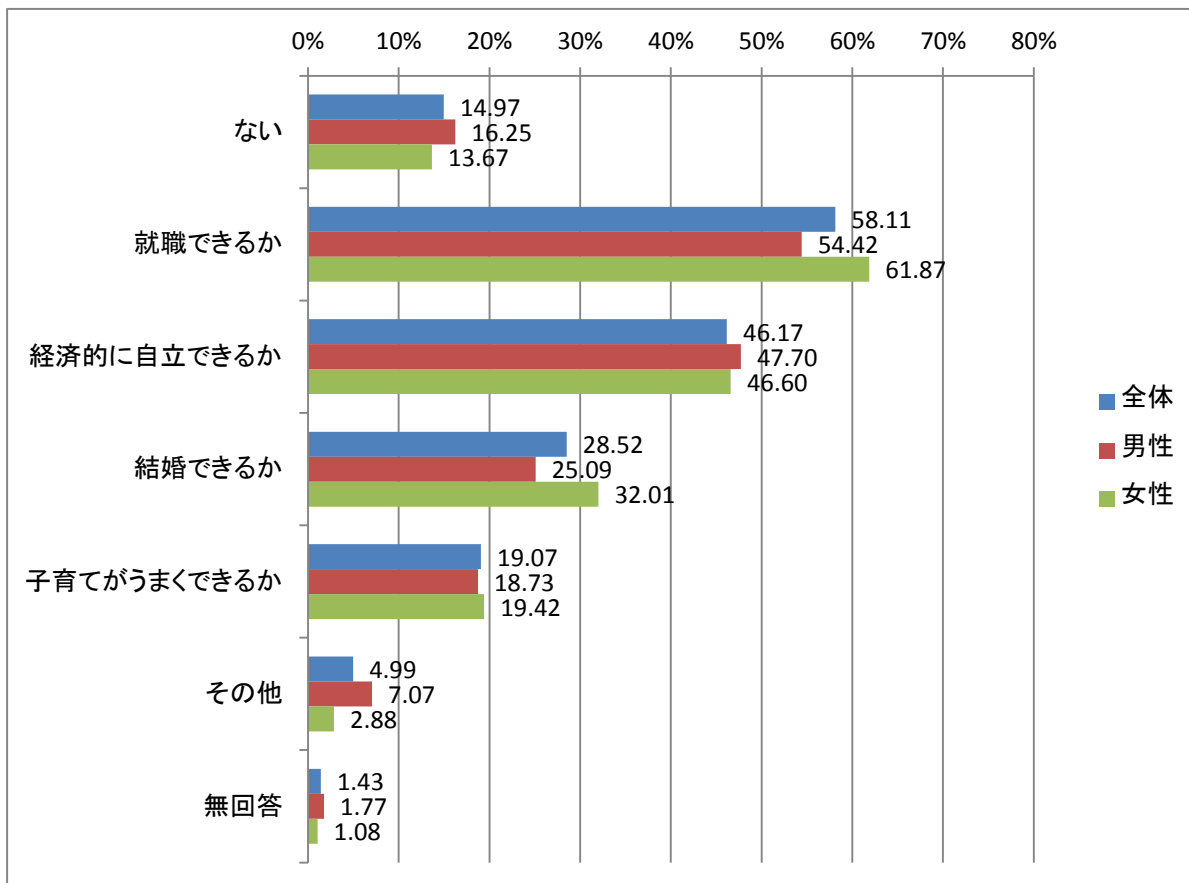
高校生



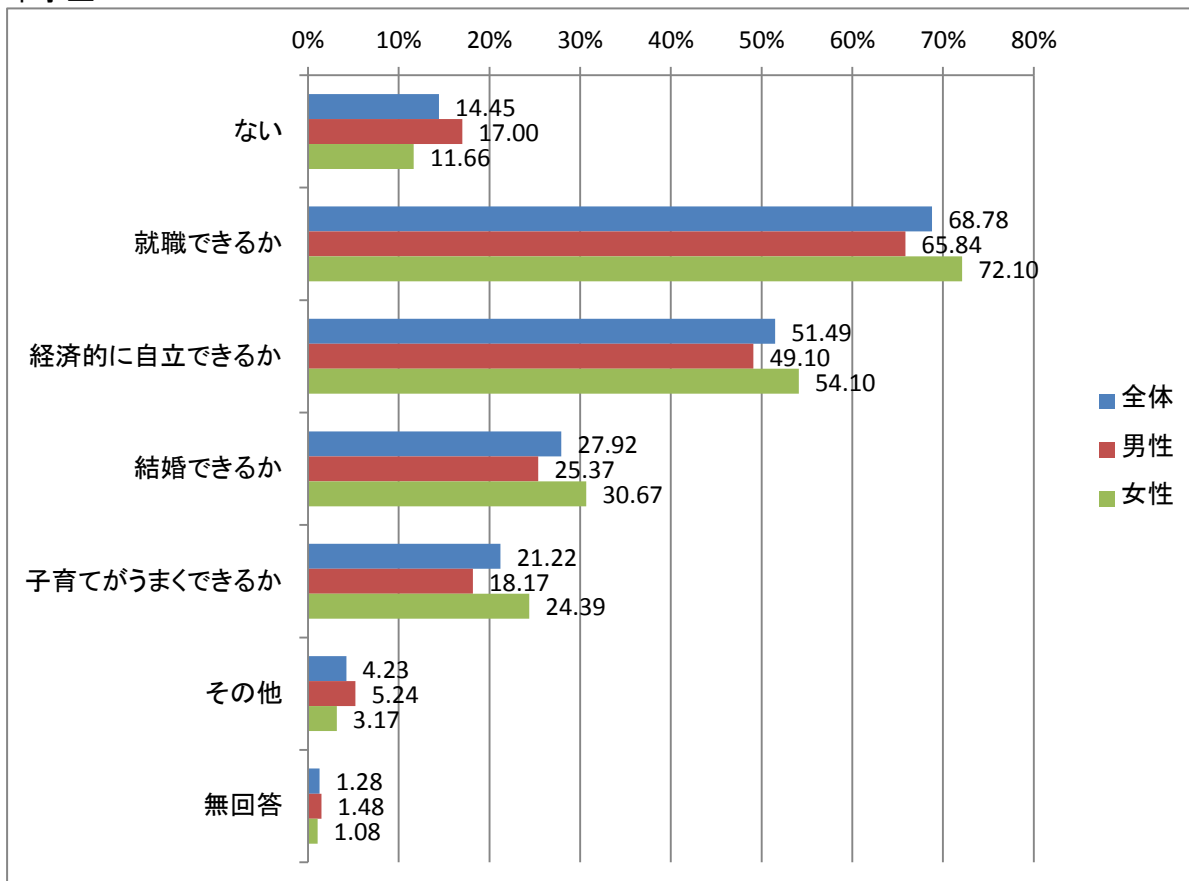
中学生



問18 あなたは、将来の社会生活について、どのような心配事や不安はありますか。(〇はいくつでも)
高校生



中学生



クロス集計とカイ二乗検定結果

1. 中学・高校による比較(全体)

表1. 「家事頻度」(Q3)と中高のクロス

	よくしている	まあまあしている	たまにしている	ほとんどして いない	まったくして いない	合計
中学	501 13.7%	960 26.3%	1528 41.8%	580 15.9%	88 2.4%	3657 *** 100.0%
高校	51 9.1%	118 21.0%	231 41.2%	138 24.6%	23 4.1%	561 100.0%
合計	552 13.1%	1078 25.6%	1759 41.7%	718 17.0%	111 2.6%	4218 100.0%

注:表の右上に示したのは χ^2 二乗検定結果

*** :0.1%水準で有意、** :1%水準で有意、* :5%水準で有意、ナシ:5%での有意差なし
(以下、同様)

表2. 「異世代交流頻度」(Q4)と中高のクロス

	よくある	まあまあある	たまにある	ほとんどない	まったくない	合計
中学	641 17.5%	835 22.8%	1,181 32.3%	860 23.5%	140 3.8%	3,657 *** 100.0%
高校	77 13.7%	104 18.5%	179 31.9%	171 30.5%	30 5.3%	561 100.0%
合計	718 17.0%	939 22.3%	1,360 32.2%	1,031 24.4%	170 4.0%	4,218 100.0%

表3. 「乳幼児ふれあい頻度」(Q5)と中高のクロス

	常にある	年3回以上	年1-2回	まったくない	合計
中学	262 7.2%	723 19.9%	1,066 29.4%	1,581 43.5%	3,632 *** 100.0%
高校	13 2.3%	65 11.7%	165 29.7%	313 56.3%	556 100.0%
合計	275 6.6%	788 18.8%	1,231 29.4%	1,894 45.2%	4,188 100.0%

表4. 「結婚希望の有無」(Q6)と中高のクロス

	結婚したい	あまりしたいと 思わない	よくわからない	合計
中学	2,185 60.0%	447 12.3%	1,011 27.8%	3,643 *** 100.0%
高校	416 74.4%	57 10.2%	86 15.4%	559 100.0%
合計	2,601 61.9%	504 12.0%	1,097 26.1%	4,202 100.0%

表5. 「子どもの理想数」(Q9)と中高のクロス

	1人	2人	3人	4人	ほしいと思わない	よく分らない	合計
中学	248 6.8%	1,887 51.8%	474 13.0%	81 2.2%	248 6.8%	706 19.4%	3,644 *** 100.0%
高校	27 4.8%	348 62.1%	93 16.6%	3 0.5%	30 5.4%	59 10.5%	560 100.0%
合計	275 6.5%	2,235 53.2%	567 13.5%	84 2.0%	278 6.6%	765 18.2%	4,204 100.0%

表6. 「就きたい職業の有無」(Q17)と中高のクロス

	ある	なんとなくある	ない	考えたことがない	合計
中学	1,393 38.4%	1,450 40.0%	486 13.4%	299 8.2%	3,628 *** 100.0%
高校	228 41.3%	242 43.8%	65 11.8%	17 3.1%	552 100.0%
合計	1,621 38.8%	1,692 40.5%	551 13.2%	316 7.6%	4,180 100.0%

2. 性別による比較(全体)

表7. 「家事頻度」(Q3)と性差のクロス

	よくしている	まあまあしている	たまにしている	ほとんどしていない	まったくしていない	合計
男性	286 13.2%	487 22.4%	918 42.3%	412 19.0%	67 3.1%	2,170 *** 100.0%
女性	265 13.0%	590 28.9%	839 41.1%	305 14.9%	43 2.1%	2,042 100.0%
合計	551 13.1%	1,077 25.6%	1,757 41.7%	717 17.0%	110 2.6%	4,212 100.0%

表8. 「異世代交流頻度」(Q4)と性差のクロス

	よくある	まあまあある	たまにある	ほとんどない	まったくない	合計
男性	317 14.6%	462 21.3%	691 31.8%	583 26.9%	117 5.4%	2,170 *** 100.0%
女性	400 19.6%	477 23.4%	665 32.6%	448 21.9%	52 2.5%	2,042 100.0%
合計	717 17.0%	939 22.3%	1,356 32.2%	1,031 24.5%	169 4.0%	4,212 100.0%

表9. 「乳幼児ふれあい頻度」(Q5)と性差のクロス

	常にある	年3回以上	年1-2回	まったくない	合計
男性	111 5.2%	348 16.2%	582 27.1%	1,109 51.6%	2,150 *** 100.0%
女性	163 8.0%	438 21.6%	647 31.8%	784 38.6%	2,032 100.0%
合計	274 6.6%	786 18.8%	1,229 29.4%	1,893 45.3%	4,182 100.0%

表10. 「結婚希望の有無」(Q6)と性差のクロス

	結婚したい	あまりしたいと思わない	よくわからない	合計
男性	1,251 57.9%	280 13.0%	630 29.2%	2,161 *** 100.0%
女性	1,346 66.1%	223 11.0%	466 22.9%	2,035 100.0%
合計	2,597 61.9%	503 12.0%	1,096 26.1%	4,196 100.0%

表11. 「子どもの理想数」(Q9)と性差のクロス

	1人	2人	3人	4人	ほしいと思わない	よく分からない	合計
男性	145 6.7%	1,077 49.9%	263 12.2%	53 2.5%	147 6.8%	474 22.0%	2,159 *** 100.0%
女性	130 6.4%	1,155 56.6%	303 14.9%	31 1.5%	131 6.4%	289 14.2%	2,039 100.0%
合計	275 6.6%	2,232 53.2%	566 13.5%	84 2.0%	278 6.6%	763 18.2%	4,198 100.0%

表12. 「就きたい職業の有無」(Q17)と性差のクロス

	ある	なんとなくある	ない	考えたことがない	合計
男性	802 37.4%	825 38.5%	309 14.4%	206 9.6%	2,142 *** 100.0%
女性	816 40.2%	864 42.5%	242 11.9%	110 5.4%	2,032 100.0%
合計	1,618 38.8%	1,689 40.5%	551 13.2%	316 7.6%	4,174 100.0%

3. 中高別にみた性別による比較

表13. 中高別に見た「家事頻度」(Q3)と性別のクロス

		よくしている	まあまあしている	たまにしている	ほとんどしていない	まったくしていない	合計
中学	男性	259 13.7%	436 23.1%	810 42.9%	332 17.6%	50 2.6%	1887 *** 100.0%
	女性	241 13.7%	523 29.6%	716 40.6%	247 14.0%	37 2.1%	1764 100.0%
	合計	500 13.7%	959 26.3%	1526 41.8%	579 15.9%	87 2.4%	3651 100.0%
高校	男性	27 9.5%	51 18.0%	108 38.2%	80 28.3%	17 6.0%	283 * 100.0%
	女性	24 8.6%	67 24.1%	123 44.2%	58 20.9%	6 2.2%	278 100.0%
	合計	51 9.1%	118 21.0%	231 41.2%	138 24.6%	23 4.1%	561 100.0%

表14. 中高別に見た「異世代交流頻度」(Q4)と性別のクロス

		よくある	まあまあある	たまにある	ほとんどない	まったくない	合計
中学	男性	282 14.9%	414 21.9%	603 32.0%	491 26.0%	97 5.1%	1,887 *** 100.0%
	女性	358 20.3%	421 23.9%	574 32.5%	369 20.9%	42 2.4%	1,764 100.0%
	合計	640 17.5%	835 22.9%	1,177 32.2%	860 23.6%	139 3.8%	3,651 100.0%
高校	男性	35 12.4%	48 17.0%	88 31.1%	92 32.5%	20 7.1%	283 100.0%
	女性	42 15.1%	56 20.1%	91 32.7%	79 28.4%	10 3.6%	278 100.0%
	合計	77 13.7%	104 18.5%	179 31.9%	171 30.5%	30 5.3%	561 100.0%

表15. 中高別に見た「乳幼児ふれあい頻度」(Q5)と性別のクロス

		常にある	年3回以上	年1-2回	まったくない	合計
中学	男性	103 5.5%	323 17.3%	513 27.4%	931 49.8%	1,870 *** 100.0%
	女性	158 9.0%	398 22.7%	551 31.4%	649 37.0%	1,756 100.0%
	合計	261 7.2%	721 19.9%	1,064 29.3%	1,580 43.6%	3,626 100.0%
高校	男性	8 2.9%	25 8.9%	69 24.6%	178 63.6%	280 * 100.0%
	女性	5 1.8%	40 14.5%	96 34.8%	135 48.9%	276 100.0%
	合計	13 2.3%	65 11.7%	165 29.7%	313 56.3%	556 100.0%

表16. 中高別に見た「結婚希望有無」(Q6)と性別のクロス

		結婚したい	あまりしたいと思わない	よくわからない	合計	
中学	男性	1,044	249	586	1,879	***
		55.6%	13.3%	31.2%	100.0%	
	女性	1,137	197	424	1,758	
		64.7%	11.2%	24.1%	100.0%	
	合計	2,181	446	1,010	3,637	
		60.0%	12.3%	27.8%	100.0%	
高校	男性	207	31	44	282	ナシ
		73.4%	11.0%	15.6%	100.0%	
	女性	209	26	42	277	
		75.5%	9.4%	15.2%	100.0%	
	合計	416	57	86	559	
		74.4%	10.2%	15.4%	100.0%	

表17. 中高別に見た「理想子ども人数」(Q9)と性別のクロス

		1人	2人	3人	4人	ほしいと思わない	よく分からない	合計	
中学	男性	130	902	225	50	132	438	1,877	***
		6.9%	48.1%	12.0%	2.7%	7.0%	23.3%	100.0%	
	女性	118	982	248	31	116	266	1,761	
		6.7%	55.8%	14.1%	1.8%	6.6%	15.1%	100.0%	
	合計	248	1884	473	81	248	704	3,638	
		6.8%	51.8%	13.0%	2.2%	6.8%	19.4%	100.0%	
高校	男性	15	175	38	3	15	36	282	ナシ
		5.3%	62.1%	13.5%	1.1%	5.3%	12.8%	100.0%	
	女性	12	173	55	0	15	23	278	
		4.3%	62.2%	19.8%	0.0%	5.4%	8.3%	100.0%	
	合計	27	348	93	3	30	59	560	
		4.8%	62.1%	16.6%	0.5%	5.4%	10.5%	100.0%	

表18. 中高別に見た「就きたい職業有無」(Q17)と性別のクロス

		ある	なんとなくある	ない	考えたことがない	合計	
中学	男性	692	704	271	198	1,865	***
		37.1%	37.7%	14.5%	10.6%	100.0%	
	女性	698	743	215	101	1,757	
		39.7%	42.3%	12.2%	5.7%	100.0%	
	合計	1,390	1,447	486	299	3,622	
		38.4%	40.0%	13.4%	8.3%	100.0%	
高校	男性	110	121	38	8	277	ナシ
		39.7%	43.7%	13.7%	2.9%	100.0%	
	女性	118	121	27	9	275	
		42.9%	44.0%	9.8%	3.3%	100.0%	
	合計	228	242	65	17	552	
		41.3%	43.8%	11.8%	3.1%	100.0%	

4. 「結婚希望の有無」と諸変数のクロス表

表19. 結婚希望有無(問6) * 兄弟姉妹数(問2)のクロス

		1人	2人	3人	4人以上	合計	
結婚希望	結婚したい	256	1,235	574	115	2,180	
		11.7%	56.7%	26.3%	5.3%	100.0%	ナシ
	あまりしたいと思わない	63	254	100	28	445	
	よくわからない	126	564	259	59	1,008	
		12.5%	56.0%	25.7%	5.9%	100.0%	
合計		445	2,053	933	202	3,633	
		12.2%	56.5%	25.7%	5.6%	100.0%	
中学	結婚したい	45	273	90	8	416	
		10.8%	65.6%	21.6%	1.9%	100.0%	ナシ
	あまりしたいと思わない	4	34	16	3	57	
	よくわからない	12	54	18	2	86	
		14.0%	62.8%	20.9%	2.3%	100.0%	
合計		61	361	124	13	559	
		10.9%	64.6%	22.2%	2.3%	100.0%	

表20. 結婚希望有無(問6) * 家事頻度(問3)のクロス

		よくしている	まあまあしている	たまにしている	ほとんどしていない	まったくしていない	合計
結婚希望	結婚したい	330	570	907	335	42	2,184 ***
		15.1%	26.1%	41.5%	15.3%	1.9%	100.0%
	あまりしたいと思わない	67	127	165	67	20	446
	よくわからない	102	258	452	174	25	1,011
		10.1%	25.5%	44.7%	17.2%	2.5%	100.0%
合計		499	955	1,524	576	87	3,641
		13.7%	26.2%	41.9%	15.8%	2.4%	100.0%
高校	結婚したい	35	88	177	99	17	416 ナシ
		8.4%	21.2%	42.5%	23.8%	4.1%	100.0%
	あまりしたいと思わない	8	13	20	14	2	57
	よくわからない	8	17	33	24	4	86
		9.3%	19.8%	38.4%	27.9%	4.7%	100.0%
合計		51	118	230	137	23	559
		9.1%	21.1%	41.1%	24.5%	4.1%	100.0%

表21. 結婚希望有無(問6) * 異世代交流頻度(問4)のクロス

		よくある	まあまあある	たまにある	ほとんどない	まったくない	合計
結婚希望	結婚したい	430	515	712	468	59	2,184 ***
		19.7%	23.6%	32.6%	21.4%	2.7%	100.0%
	あまりしたいと思わない	70	86	134	129	26	445
	よくわからない	140	231	329	257	54	1,011
		13.8%	22.8%	32.5%	25.4%	5.3%	100.0%
合計		640	832	1,175	854	139	3,640
		17.6%	22.9%	32.3%	23.5%	3.8%	100.0%
高校	結婚したい	60	82	136	123	15	416 ナシ
		14.4%	19.7%	32.7%	29.6%	3.6%	100.0% (10%水準では有)
	あまりしたいと思わない	7	7	14	22	7	57
	よくわからない	10	15	29	24	8	86
		11.6%	17.4%	33.7%	27.9%	9.3%	100.0%
合計		77	104	179	169	30	559
		13.8%	18.6%	32.0%	30.2%	5.4%	100.0%

表22. 結婚希望有無(問6) * 乳幼児ふれあい頻度(問5)のクロス

		常にある	年3回以上	年1-2回	まったくない	合計
結婚希望	結婚したい	190	484	687	811	2,172 ***
		8.7%	22.3%	31.6%	37.3%	100.0%
	あまりしたいと思わない	27	69	86	260	442
	よくわからない	45	168	287	504	1,004
		4.5%	16.7%	28.6%	50.2%	100.0%
合計		262	721	1,060	1,575	3,618
		7.2%	19.9%	29.3%	43.5%	100.0%
高校	結婚したい	11	52	131	218	412 ナシ
		2.7%	12.6%	31.8%	52.9%	100.0%
	あまりしたいと思わない	1	4	13	39	57
	よくわからない	1	9	21	54	85
		1.2%	10.6%	24.7%	63.5%	100.0%
合計		13	65	165	311	554
		2.3%	11.7%	29.8%	56.1%	100.0%

5. 「理想とする子ども人数」と諸変数のクロス表

※「ほしいと思わない」と答えた者の回答を枠線で囲んでいる

表23. 理想とする子ども人数(問9) * 兄弟姉妹数(問2)のクロス

		1人	2人	3人	4人以上	合計			
中学	1人	88 35.5%	112 45.2%	39 15.7%	9 3.6%	248 100.0%	***		
	2人	223 11.9%	1,157 61.5%	409 21.7%	92 4.9%	1,881 100.0%		自分の兄弟姉妹数を理想とする傾向がある	
	3人	17 3.6%	230 48.5%	197 41.6%	30 6.3%	474 100.0%			
	4人	6 7.4%	38 46.9%	21 25.9%	16 19.8%	81 100.0%			
	ほしいと思わない	31 12.6%	138 55.9%	61 24.7%	17 6.9%	247 100.0%	※「ほしいと思わない」と兄弟数はほとんど関係がないようだ		
	よく分からない	81 11.5%	381 54.0%	205 29.1%	38 5.4%	705 100.0%			
	合計	446 12.3%	2,056 56.5%	932 25.6%	202 5.6%	3,636 100.0%			
	高校	1人	10 37.0%	15 55.6%	2 7.4%	0 0.0%	27 100.0%	***	
		2人	32 9.2%	248 71.3%	65 18.7%	3 0.9%	348 100.0%		※中学と同様、自分の兄弟姉妹数を理想とする傾向
		3人	7 7.5%	47 50.5%	33 35.5%	6 6.5%	93 100.0%		
4人		1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	※高校で「4名以上」とする者の人数は非常に少ないので取り上げない(他同様)		
ほしいと思わない		5 16.7%	19 63.3%	5 16.7%	1 3.3%	30 100.0%			
よく分からない		6 10.2%	30 50.8%	20 33.9%	3 5.1%	59 100.0%			
合計		61 10.9%	360 64.3%	126 22.5%	13 2.3%	560 100.0%			

表24. 理想とする子ども人数(問9) * 家事頻度(問3)のクロス

		よくしている	まあまあしている	たまにしている	ほとんどして ない	まったくして ない	合計	
中学	1人	43 17.3%	60 24.2%	93 37.5%	47 19.0%	5 2.0%	248 100.0%	**
	2人	249 13.2%	497 26.4%	823 43.6%	279 14.8%	38 2.0%	1,886 100.0%	
	3人	72 15.2%	141 29.7%	188 39.7%	65 13.7%	8 1.7%	474 100.0%	
	4人	20 24.7%	23 28.4%	25 30.9%	11 13.6%	2 2.5%	81 100.0%	
	ほしいと思わない	37 14.9%	69 27.8%	89 35.9%	43 17.3%	10 4.0%	248 100.0%	※「ほしいと思わない」と答えた率は、全体の傾向とほぼ等しい
	よく分からない	80 11.3%	166 23.5%	302 42.8%	134 19.0%	24 3.4%	706 100.0%	
	合計	501 13.8%	956 26.2%	1,520 41.7%	579 15.9%	87 2.4%	3,643 100.0%	
高校	1人	2 7.4%	3 11.1%	7 25.9%	13 48.1%	2 7.4%	27 100.0%	ナシ
	2人	30 8.6%	71 20.4%	150 43.1%	82 23.6%	15 4.3%	348 100.0%	
	3人	7 7.5%	24 25.8%	39 41.9%	21 22.6%	2 2.2%	93 100.0%	
	4人	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	3 100.0%	
	ほしいと思わない	5 16.7%	7 23.3%	9 30.0%	6 20.0%	3 10.0%	30 100.0%	
	よく分からない	6 10.2%	12 20.3%	25 42.4%	15 25.4%	1 1.7%	59 100.0%	
合計	51 9.1%	118 21.1%	231 41.3%	137 24.5%	23 4.1%	560 100.0%		

表25. 理想とする子ども人数(問9) * 異世代交流頻度(問4)のクロス

		よくある	まあまあある	たまにある	ほとんどない	まったくない	合計	
中学	1人	53	66	63	56	10	248 ***	
		21.4%	26.6%	25.4%	22.6%	4.0%	100.0%	
	2人	337	426	662	408	53	1,886	
		17.9%	22.6%	35.1%	21.6%	2.8%	100.0%	
	3人	101	121	144	99	8	473	
		21.4%	25.6%	30.4%	20.9%	1.7%	100.0%	
	4人	23	20	20	16	2	81	
		28.4%	24.7%	24.7%	19.8%	2.5%	100.0%	
	ほしいと思わない	28	63	64	76	17	248	※交流が少なくなると、「ほしいと思わない」との回答が高くなる傾向
		11.3%	25.4%	25.8%	30.6%	6.9%	100.0%	
よく分からない	97	136	222	202	49	706		
	13.7%	19.3%	31.4%	28.6%	6.9%	100.0%		
合計	639	832	1,175	857	139	3,642		
	17.5%	22.8%	32.3%	23.5%	3.8%	100.0%		
高校	1人	4	4	4	13	2	27 ナシ	
		14.8%	14.8%	14.8%	48.1%	7.4%	100.0%	
	2人	52	57	117	105	17	348	
		14.9%	16.4%	33.6%	30.2%	4.9%	100.0%	
	3人	10	27	31	20	5	93	
		10.8%	29.0%	33.3%	21.5%	5.4%	100.0%	
	4人	1	1	0	1	0	3	
		33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%	
	ほしいと思わない	4	4	8	11	3	30	※中学と同様の傾向
		13.3%	13.3%	26.7%	36.7%	10.0%	100.0%	
よく分からない	6	11	19	20	3	59		
	10.2%	18.6%	32.2%	33.9%	5.1%	100.0%		
合計	77	104	179	170	30	560		
	13.8%	18.6%	32.0%	30.4%	5.4%	100.0%		

表26. 理想とする子ども人数(問9) * 乳幼児ふれあい頻度(問5)のクロス

		問5 乳幼児ふれあい				合計	
		常にある	年3回以上	年1-2回	まったくない		
中学	1人	21	41	64	119	245 ***	
		8.6%	16.7%	26.1%	48.6%	100.0%	
	2人	129	394	599	754	1,876	
		6.9%	21.0%	31.9%	40.2%	100.0%	
	3人	47	114	169	143	473	
		9.9%	24.1%	35.7%	30.2%	100.0%	
	4人	14	23	17	27	81	
		17.3%	28.4%	21.0%	33.3%	100.0%	
	ほしいと思わない	12	29	49	156	246	※「ふれあいがまったくない」において「ほしいと思わない」の回答率が高い
		4.9%	11.8%	19.9%	63.4%	100.0%	
よく分からない	37	122	164	376	699		
	5.3%	17.5%	23.5%	53.8%	100.0%		
合計	260	723	1,062	1,575	3,620		
	7.2%	20.0%	29.3%	43.5%	100.0%		
高校	1人	1	2	8	15	26 ナシ	
		3.8%	7.7%	30.8%	57.7%	100.0%	
	2人	8	38	109	189	344	
		2.3%	11.0%	31.7%	54.9%	100.0%	
	3人	2	15	30	46	93	
		2.2%	16.1%	32.3%	49.5%	100.0%	
	4人	0	0	0	3	3	
		0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	
	ほしいと思わない	1	1	6	22	30	
		3.3%	3.3%	20.0%	73.3%	100.0%	
よく分からない	1	9	11	38	59		
	1.7%	15.3%	18.6%	64.4%	100.0%		
合計	13	65	164	313	555		
	2.3%	11.7%	29.5%	56.4%	100.0%		